

神戸観光局マーケティング情報

2 0 2 5 年
神 戸 観 光
年 間 レ ポ ー ト

2026年5月20日発行

一般財団法人神戸観光局

はじめに	P. 2
各種データのポイント	P. 3
1. 神戸市内宿泊動向 神戸	P. 4
延べ宿泊者数 / 客室稼働率	
国内・インバウンド推移 / インバウンド国籍割合 / 主要5カ国月別推移	
エリア別分析 中央区・有馬温泉 / 【参考】全国及び関西 延べ宿泊者数/インバウンド国籍割合	
2. 国内OTAモニタリング 神戸	P. 16
概況 / 予約人数 / 客単価・部屋単価 / 属性分析	
3. 全国インバウンド情報 全国	P. 23
訪日外客数 概況 / 消費額 国別・費目別	
4. エアライン・クルーズ船情報 関西 神戸	P. 28
関西国際空港・神戸空港 概況 / 関西国際空港 国別入国者数	
神戸港 クルーズ船 入港隻数・船客数	
5. MICE・観光施設・観光案内所 動向～神戸観光局オリジナルデータ～ 神戸	P. 33
神戸市内MICE 開催総件数	
観光案内所 案内件数 / インバウンド対応割合	
主要観光施設 来場者数	
神戸の観光情報発信ランキング	
アンケートご協力のお願い	P. 40

神戸観光局の活動に対するご高配、誠にありがとうございます。

JNTOが発表した2025年の訪日外客数は2年連続で過去最高を記録し、4,000万人を突破しました。昨年11月からの中国渡航自粛の影響から、12月以降は中国からの訪日客の減少が続いている一方で、他の国・地域からの訪日需要は拡大しており、成長基調は継続しています。

この成長を支えるためには、観光関連のデータ分析・活用が重要であり、神戸観光局が毎月配信している「マンスリーレポート」もその一助として、神戸観光局会員の皆様に活用して頂けていますと幸いです。

この度、「2025年 神戸観光年間レポート」を配信いたします。

1年間のデータを見ると、改めて2025年の着実な成長を実感することができます。神戸市内に目を向けると、神戸空港の国際化やGLION ARENA KOBE(ジーライオンアリーナ神戸)の開業、大阪・関西万博を契機とした広域での人流の活発化など、大きな転機を迎え、神戸観光局が2025年目標値として掲げていたインバウンド延べ宿泊者数100万人を突破する飛躍の年となりました。

今後、2030年の国際定期便就航や三宮再整備の完成による交流人口の増加を見据え、有効な事業展開をしていくためにも、ぜひ一度、この年間データをご覧いただき、昨年1年間の皆様の事業の年間分析・評価にご活用いただければ幸いです。

また、年間レポートの配信とともに「2025年神戸観光年間レポート 読者アンケート」も昨年に引き続き実施いたします。皆様からのご意見やフィードバックを通じて、より有益なレポート作成に役立てたいと考えておりますので、ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

一般財団法人 神戸観光局
専務理事 多名部 重則

✓ 神戸市延べ宿泊者数

神戸

2025年、神戸市の延べ宿泊者数は国内外合わせて775.7万人に達し、前年比で108.7%と前年を上回る伸びを見せた。中でも外国人延べ宿泊者数は4月以降神戸空港国際化の影響が顕著で、当初の目標であった100万人を大きく上回る140.7万人に達し、インバウンド需要の拡大が顕著に見られた。国内延べ宿泊者数においても635万人（前年比102.6%）と増加し、すべての項目で目標を達成。

[5ページ～](#)

✓ 全国訪日外客数及び消費額

全国

2025年における全国の訪日外客数は過去最高の4,268万人（前年比115.8%）を記録し、初の4,000万人を突破。また、2025年訪日外国人の消費額は9.5兆円（前年比116.4%）とこちらも過去最高を記録。観光・レジャー目的の訪日旅行者に限ると、1人1泊あたりの支出が最も多いのは、昨年に引き続き中国、香港であった。

[25ページ～](#)

✓ 神戸港 クルーズ船入港状況

神戸

2025年の入港隻数は、過去最多となる143隻が入港し、2019年比107%となり、コロナ前を超える回復となった。特に外国籍船は108隻となり、2019年の65隻を大きく上回った。一方、乗船客数は2019年比92%となった。コロナ後、大型客船が減少し、旅客定員の少ないラグジュアリークラスの外国客船が増加したことが要因と考えられる。

[32ページ～](#)

✓ 神戸市観光案内所

神戸

三宮・北野・新神戸の観光案内所での対応件数は、前年比102%となった。3案内所全体のインバウンドの国別対応件数では、2025年1位：中国、2位：台湾、3位：韓国。アジア圏の対応が全体の約半数の52.5%となった。新神戸案内所は欧米豪の割合が全体の約4分の1を占めるなど、案内所それぞれの立地の特徴が表れている。

[36ページ～](#)

✓ 神戸市国内OTA実績

神戸

4月の神戸空港国際化を契機に、インバウンド需要の拡大が客単価を押し上げ、前年比109.5%と好調に推移した。一方で、集客人数が追いつかず下半期は減少傾向となり、通年の人泊数は98.9%に留まった。しかし、単価上昇が寄与したことで、取扱総額としては堅調に推移している。

[17ページ～](#)

✓ 関西国際空港・神戸空港国際線利用状況

関西

関西国際空港の総旅客数は3,409万人となり、前年を11%上回る顕著な伸びを示した。なかでも、外国人旅客数は開港以来初めて2,000万人を突破し、好調に推移した。2025年4月から国際チャーター便が就航した神戸空港の国際線総発着回数は2,759回、総旅客数は40万5千人を記録。うち外国人旅客数は約8割を占めた。通年では高い伸びを示したものの、中国の渡航自粛といった影響を一部受ける月も見られた。

[29ページ～](#)

✓ 神戸市内MICE開催状況

神戸

2025年度（4月～3月）はコロナ前（2019年度）の111.1%を記録し、2017年度の調査開始後、過去最高となった。市内開催状況を月別に見ると、観光のトップシーズンと重ならない時期にMICEが開催されており、市内の観光需要の喚起・需要の平準化および市内消費の拡大に大きく貢献していることがうかがえる。

[34ページ～](#)

✓ 神戸市内主要観光施設来場者数

神戸

2025年は、6～9月を除くすべての月で前年を超える回復を記録した。特に1～4月までは、前年度中にリニューアルオープンした施設の影響もあり、前年比130～155%で推移した。施設からは、神戸空港の国際チャーター便就航の影響で、アジア圏を中心に前年比1.5～2倍増加したと複数聞いている。

[38ページ～](#)

1. 神戸市内宿泊動向

神戸市内宿泊動向：延べ宿泊者数

2025年1～12月 神戸市全体 延べ宿泊者数 **拡大推計値・速報**

全体 **775.7万人泊** (前年比：108.7%、2019年比：122.1%)

※2019年：635.1万人
※2024年：713.6万人

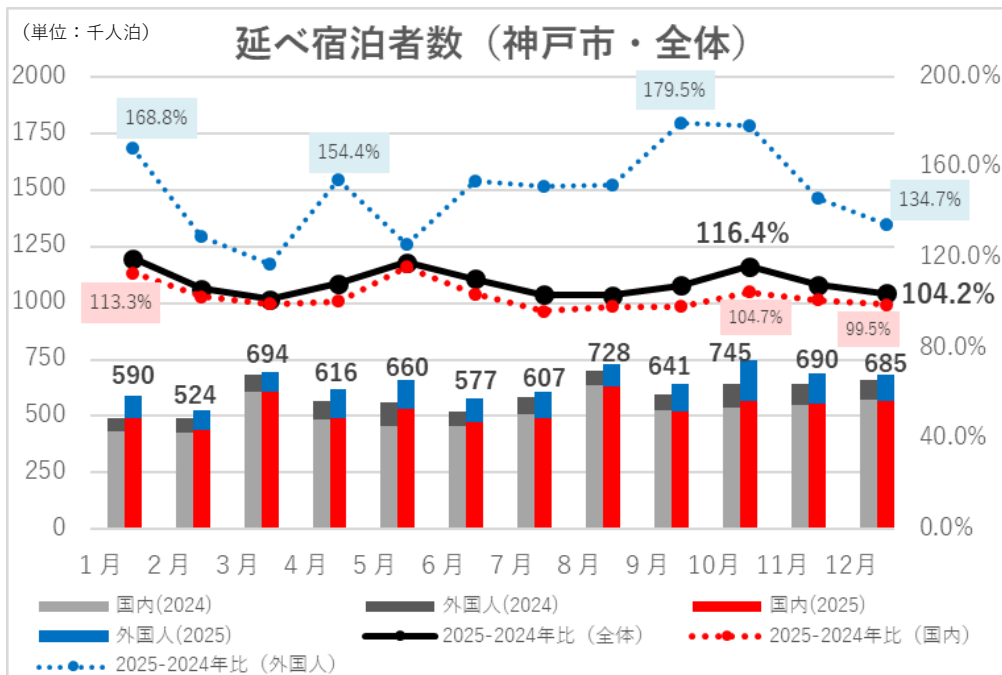
国内 **635.0万人泊** (前年比：102.6%、2019年比：113.2%)

※2019年：561.2万人
※2024年：619.2万人

外国人 **140.7万人泊** (前年比：148.9%、2019年比：190.2%)

※2019年：74.0万人
※2024年：94.5万人

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和7年各月2次速報公表データを基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算
※上記2019年延べ宿泊者数 出典：「観光予報プラットフォーム」より集計



延べ宿泊者数		2024年	2025年	
KPI	全体	635.0万人	690.0万人	
	インバウンド	—	100.0万人	
実績値	全体	713.6万人	775.7万人	達成率： 112.4%
	インバウンド	94.5万人	140.7万人	達成率： 140.7%

- 神戸市全体の延べ宿泊者数は、**年間累計で775.7万人となり、神戸観光局KPI 690万人を達成するとともに過去最高を記録した。**
- 国内延べ宿泊者数は、全国的には前年割れの中、**神戸市では年間累計で前年比102.6%と堅調に推移した。**
- 外国人延べ宿泊者数は、神戸空港の国際化などの影響を背景に、**前年比1.5倍の140.7万人まで増加し、神戸観光局KPI 100万人を10月時点で前倒し達成した。**
- 国籍別は年間を通じて1位：中国、2位：台湾、3位：韓国。東アジア圏からの宿泊者が全体の67.8%を占める。

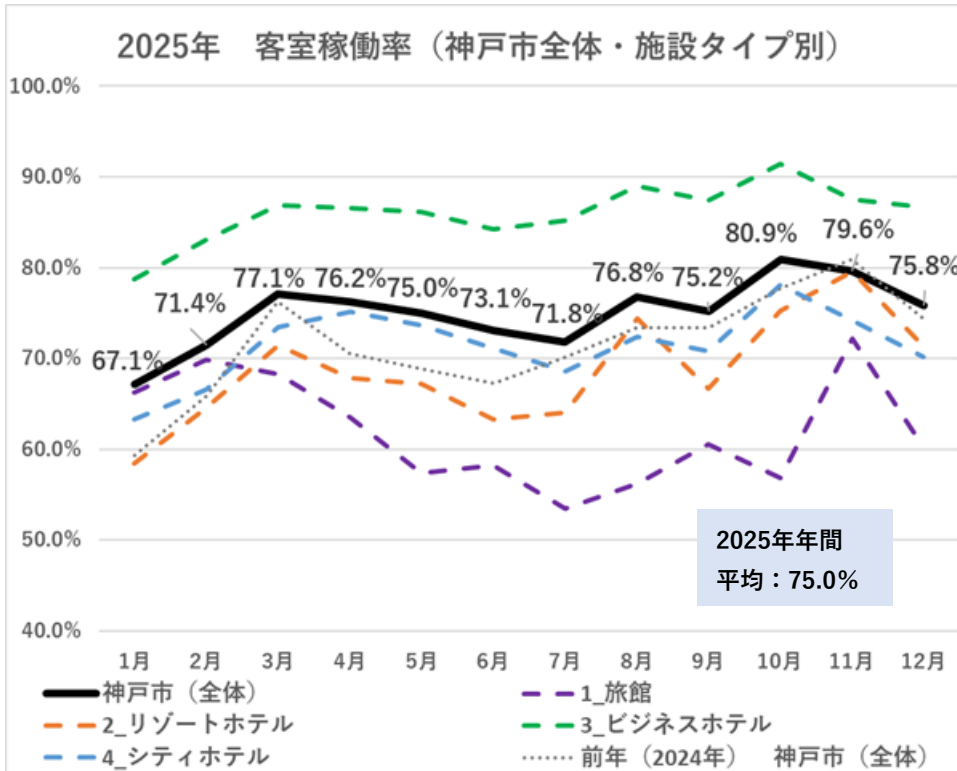
(国籍別の詳細は[p.8](#)へ)

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年確定値調査票個別データ、令和7年各月2次速報公表データを基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算

・ 2025年1～12月 神戸市全体 客室稼働率

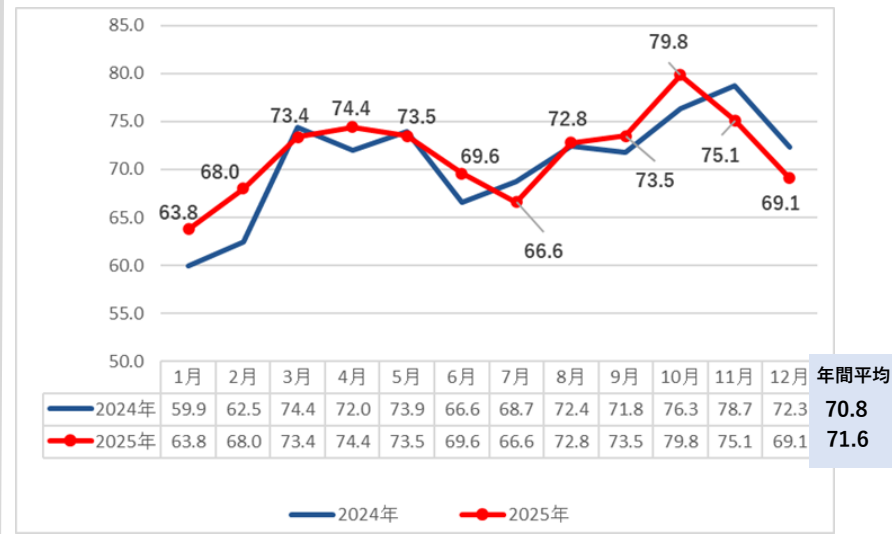
拡大推計値・速報

【調査A】 市内ホテル平均客室稼働率 宿泊施設タイプ別



【参考】
都市型ホテルの客室稼働率目安
80% 良好 / 70% 普通

【調査B(参考値)】 市内ホテル平均客室稼働率推移



出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和7年1月～12月 各月2次速報調査票個別データより分析

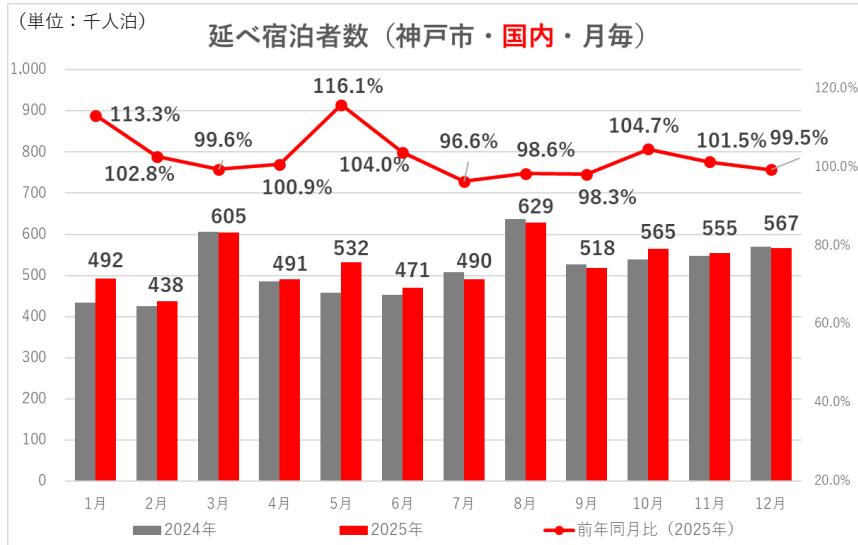
出典：日本銀行神戸支店「管内金融経済概況」
※シティホテル中心の10社ベース

- 客室稼働率は6月以降一時的に低下したものの、8月以降は回復傾向に転じ、10～11月には約8割とピークを迎えた。
- 年間平均ではおおむね72～75%で推移している（調査A：75.0%／調査B（参考値）：71.6%）
- また、市内ホテルからの報告によると、運営方針において二極化の傾向が見られる。稼働率の最大化を重視するホテルがある一方で、物価上昇等の影響を背景に、稼働率よりも客室単価の向上を優先し、限られた人員で効率的に収益を確保する方針へとシフトするホテルも増加している。

・ 2025年1～12月 神戸市全体（国内・インバウンド別）

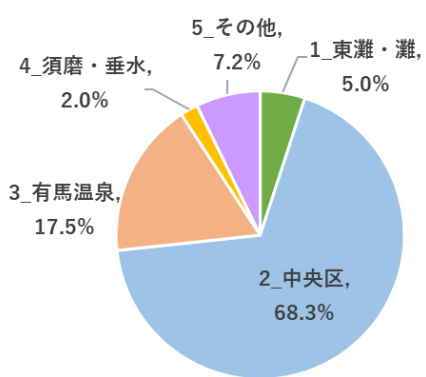
拡大推計値・速報

【国内】



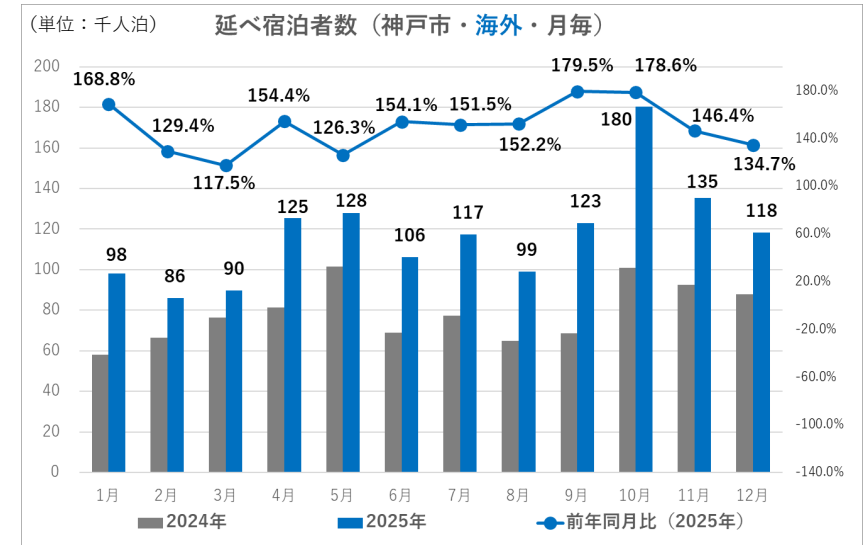
1施設当たりの平均泊数：1.25泊／人 ※ 2024年：1.27泊

エリア別人泊数シェア（国内）



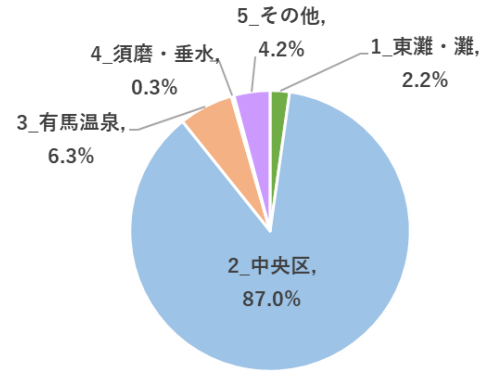
- ・年間累計では前年比102.6%と、堅調に推移した。
- ・この要因としては、市内宿泊施設からは「大阪・関西万博に伴う団体需要やGLION ARENA KOBE(ゼーライオンアリーナ神戸)をはじめとするイベント来場者の増加が多い。」との報告があり、特に遠方からの宿泊者の増加が寄与したものと考えられる。
- ・また5月は、2024年のパラ陸上大会の影響による反動もあり、前年比で大きく増加した。

【インバウンド】



1施設当たりの平均泊数：1.55泊／人 ※ 2024年：1.48泊

エリア別人泊数シェア（外国人）



- ・神戸空港の国際化が開始された4月以降、外国人延べ宿泊者数は前年比で平均約1.5倍の高い伸びを示した。
- ・これを背景にインバウンド比率も大きく上昇し、前年の13.2%から18.1%まで拡大している。
- ・特に10月は、神戸空港の国際化効果に加え、中国の国慶節や韓国のチュソクといった連休、さらにはMICE開催などが重なったことで需要が押し上げられ、単月で18万人泊を記録した。

上線グラフ出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年確定値調査個票、及び令和7年各月2次速報を基に神戸観光局で拡大推計値を独自試算

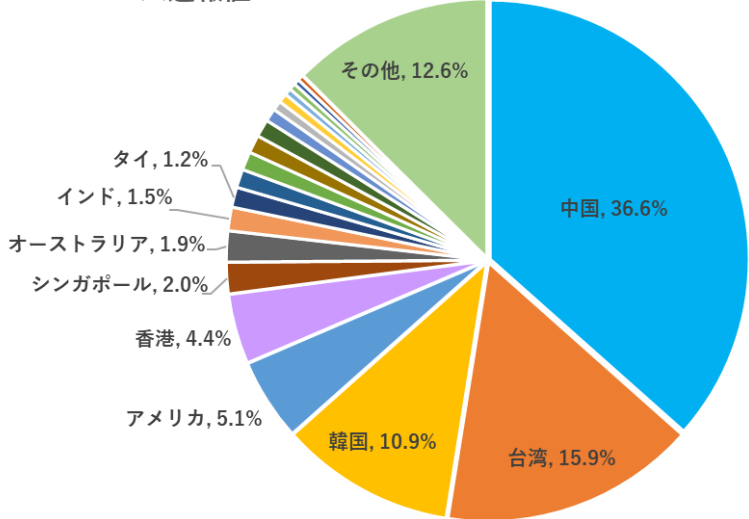
下円グラフ出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」令和7年1月～12月 各月2次速報調査個票より分析

神戸市内宿泊動向：インバウンド国籍割合

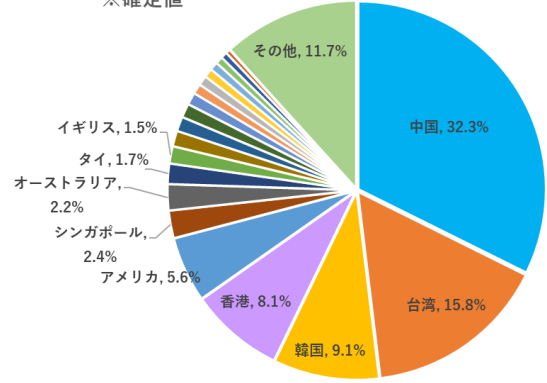
・ 2025年1～12月 神戸市全体 **拡大推計値・速報**

【国籍別分析】

神戸市（全体） 外国人延べ宿泊者数
国籍別シェア（2025年1～12月）
※速報値

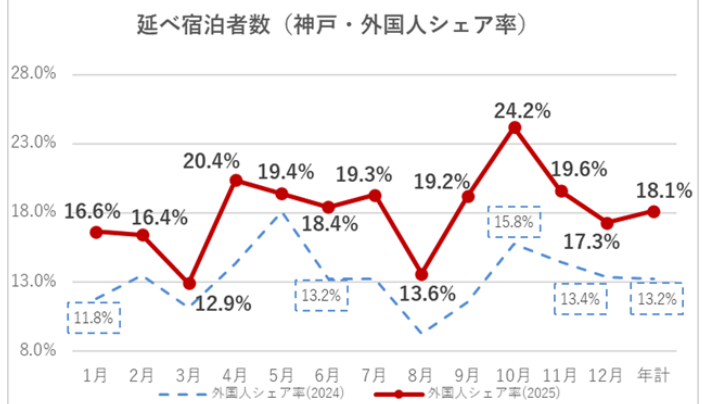
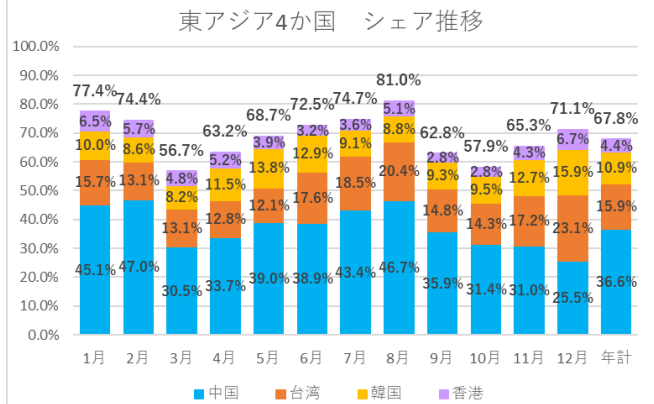


神戸市（全体） 外国人延べ宿泊者数
国籍別シェア（2024年）
※確定値



順位	国	1～12月
1	中国	36.6%
2	台湾	15.9%
3	韓国	10.9%
4	アメリカ	5.1%
5	香港	4.4%
6	シンガポール	2.0%
7	オーストラリア	1.9%
8	インド	1.5%
9	タイ	1.2%
10	ドイツ	1.1%
11	イギリス	1.1%
12	フランス	1.1%
13	カナダ	1.1%
14	マレーシア	0.8%
15	フィリピン	0.6%
16	スペイン	0.6%
17	インドネシア	0.4%
18	イタリア	0.4%
19	ベトナム	0.3%
20	ロシア	0.3%
21	その他	12.6%

【インバウンド比率推移】



・ 神戸空港国際化により、東アジア4か国のシェア率が前年から2.5%増加し67.8%に拡大した。
 ・ 国籍別では、7月に日本で地震があるという噂の影響により、香港のシェアが大きく低下した一方、中国および韓国は増加した。
 ・ 特に中国については、11月中旬頃から渡航自粛の影響が見られ、12月単月では25.5%まで低下したものの、春節期を中心とした需要の伸びにより年間で36.6%となった。

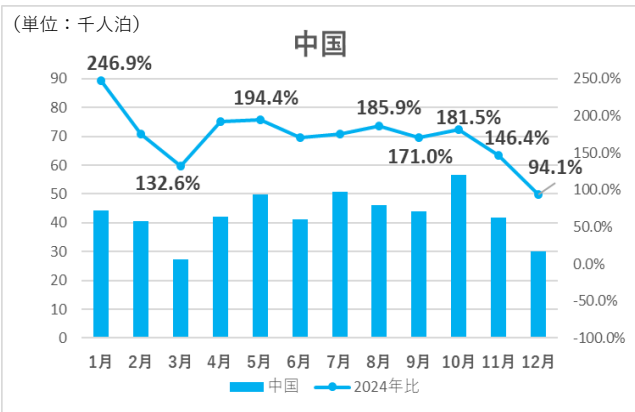
出典：【神戸市】 2024～2025年 観光庁「宿泊旅行統計調査」 令和6年確定値、令和7年2次速報調査個票より分析

神戸市内宿泊動向：主要5か国月別推移

・ 2025年1～12月 神戸市全体 ～主要5カ国分析～

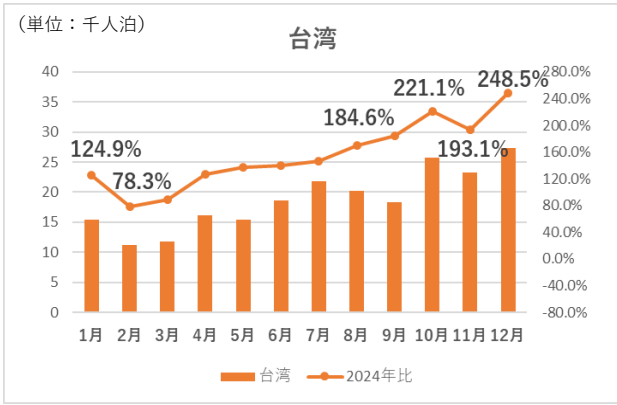
拡大推計値・速報

【中国】



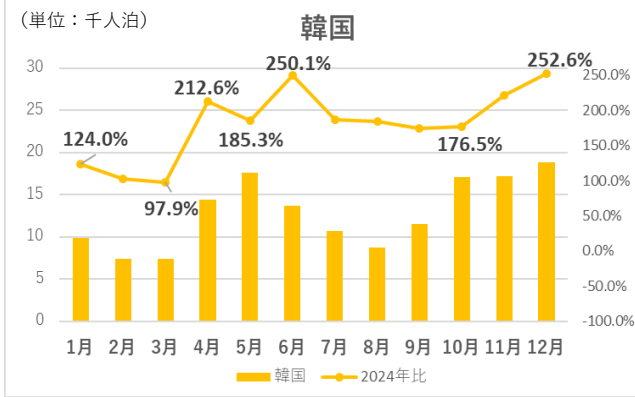
年間：51.5万人泊 (前年比：169.1%)
4月～12月：40.3万人泊 (前年比：165.8%)

【台湾】



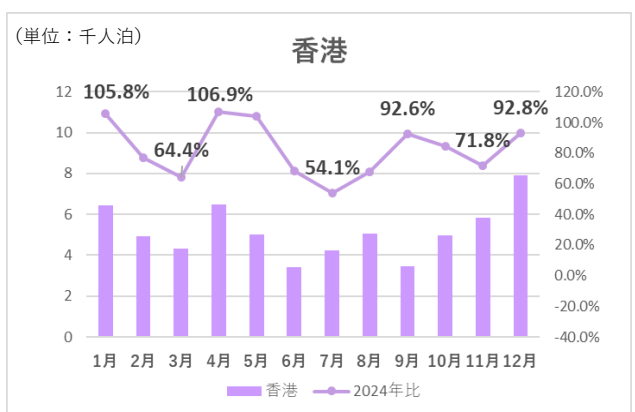
年間：22.5万人泊 (前年比：151.6%)
4月～12月：18.7万人泊 (前年比：171.8%)

【韓国】



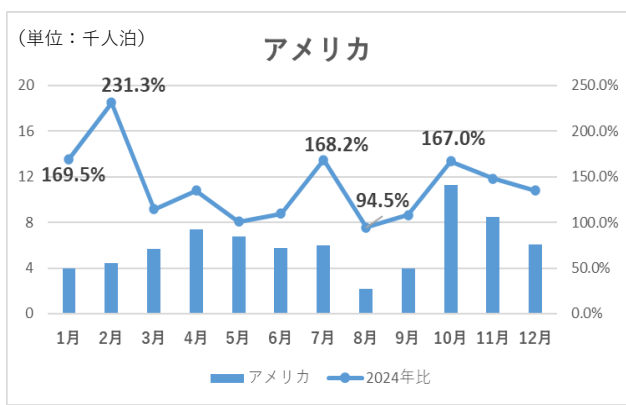
年間：15.4万人泊 (前年比：178.5%)
4月～12月：13.0万人泊 (前年比：203.5%)

【香港】



年間：6.2万人泊 (前年比：81.0%)
7月：0.4万人泊 (前年比：54.1%)
※地震の噂による影響が最も大きい月

【アメリカ】



年間：7.2万人泊 (前年比：135.4%)

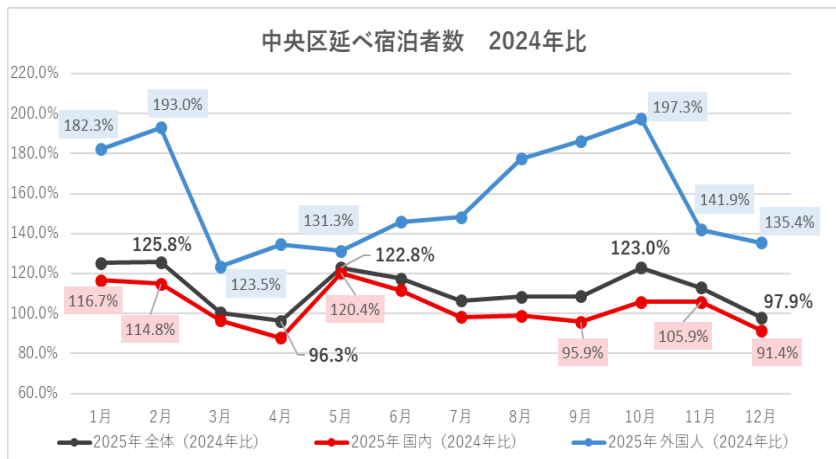
チャーター便就航国 (中国・台湾・韓国) からの宿泊者数は、4月以降いずれも前年比1.5倍以上の高い伸びを示した。

- ◇中国
10月の国慶節(10月)がピーク時期。
11月中旬の中国の渡航自粛報道を契機に宿泊者数が減少。
- ◇台湾
春節に加え、国慶節や中秋節も宿泊者数が増加し、市内宿泊施設の団体利用の増加も見られた。
- ◇韓国
労働の日(5月)や秋夕(チュク) (10月)中心に宿泊者数が多く、前年比2倍以上の月も多く見られた。
- ◇香港
本来香港のピークである7月に、地震の噂により宿泊者数が大幅に減少し、渡航自粛の影響もあり前年比を下回る月が続いた。
- ◇アメリカ
年間通して前年から30%増加し堅調に推移。

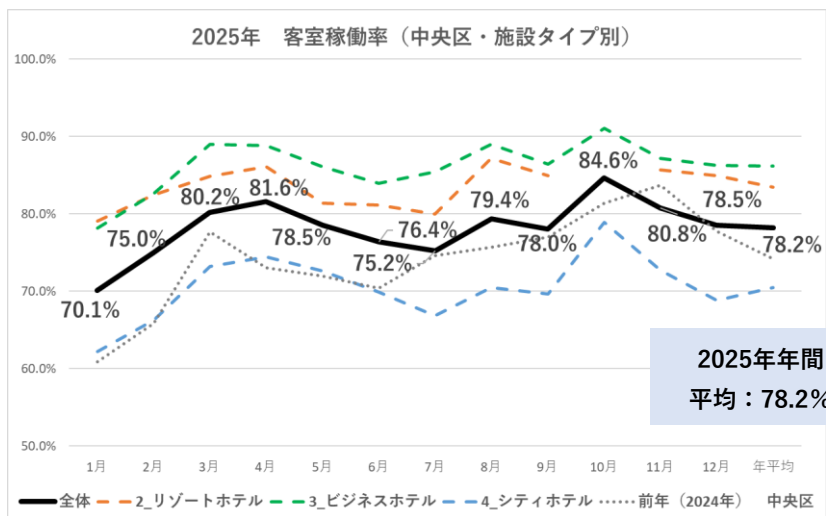
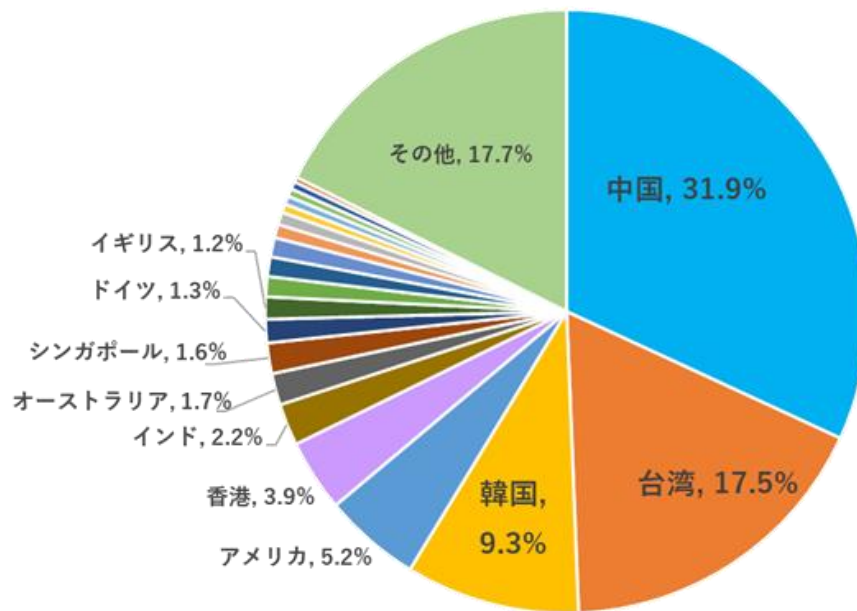
・2025年1～12月 中央区 宿泊動向

拡大推計値・速報

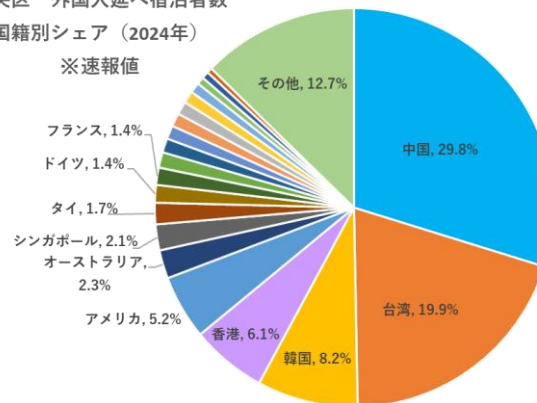
【国籍別分析】



中央区 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2025年1-12月) ※速報値



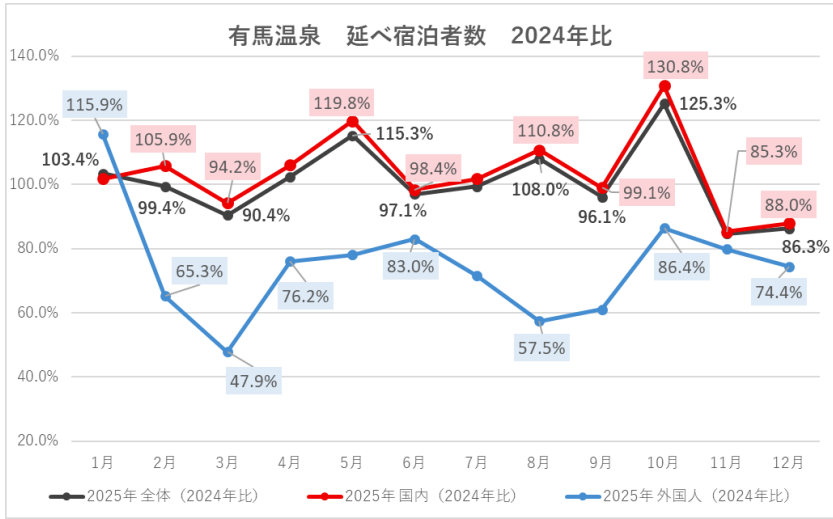
中央区 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2024年) ※速報値



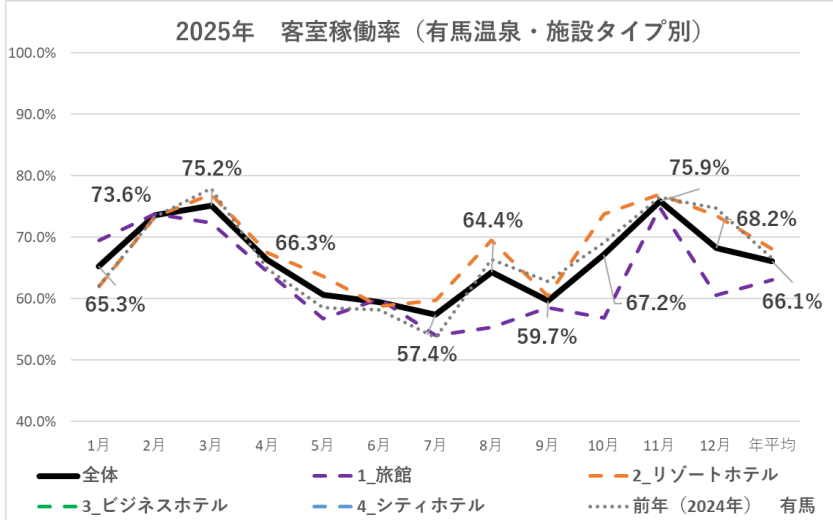
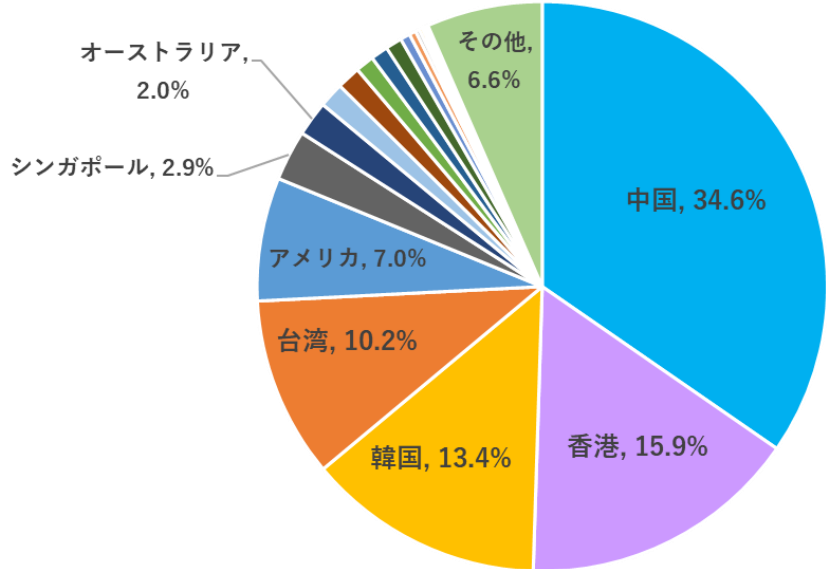
出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年確定値調査票個別データ、令和7年2次速報調査票個別データより分析

- ・年間インバウンドシェア：22.8%(前年：16.3%)
- ・国籍別では、1位：中国、2位：台湾で全体の約半数を占める。

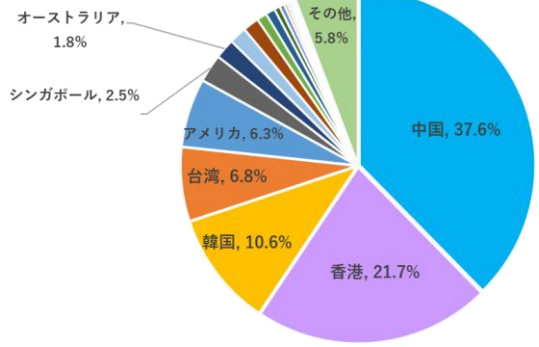
2025年1~12月 北区有馬町宿泊動向 拡大推計値・速報



有馬温泉 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2025年1月-12月) ※速報値



有馬 外国人延べ宿泊者数 国籍別シェア (2024年) ※速報値



出典：【神戸市】観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年確定値調査票個別データ、令和7年2次速報調査票個別データより分析

・年間 インバウンドシェア：7.7% (前年：10.2%)
 ・国籍別では、1位：中国、2位：香港で、全体の半数を占め、神戸市全体と比較すると香港の割合が高い。

【参考】全国年間延べ宿泊者数

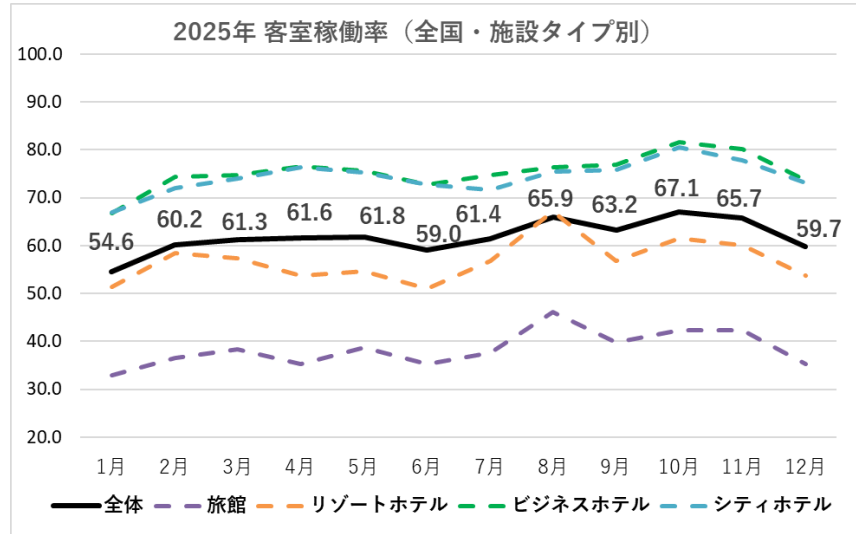
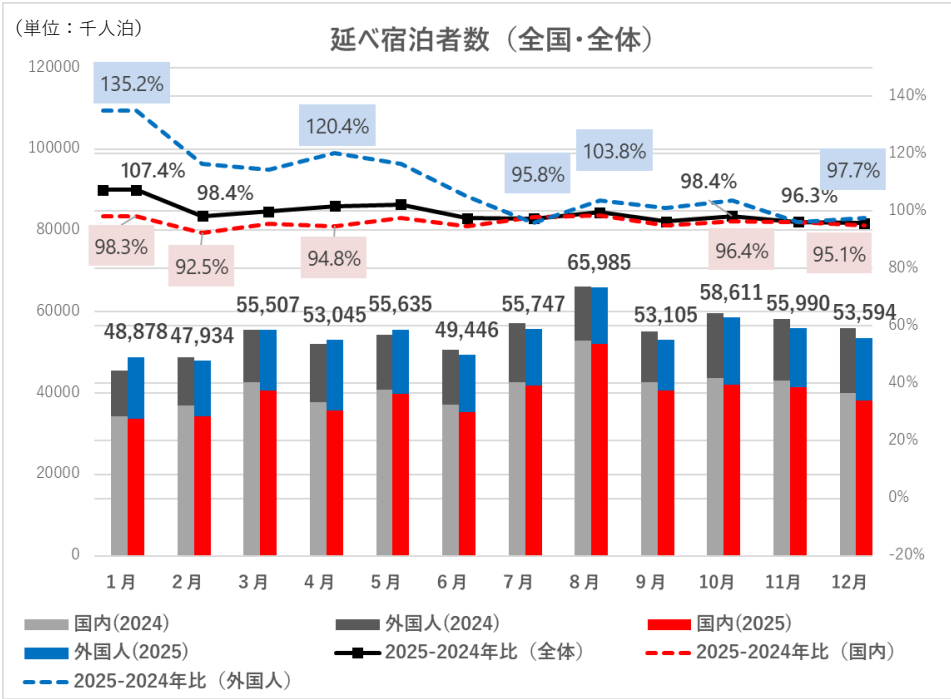
2025年1～12月 全国の延べ宿泊者数 拡大推計値・速報

※確定値は2026年6月末 観光庁より公表予定

全体	6億5,347万人泊 (前年比：99.2%)
国内	4億7,560万人泊 (前年比：96.2%)
外国人	1億7,786万人泊 (前年比：108.1%)

- 2025年の年間延べ宿泊者数は約6億5,000万人泊となり、前年と同水準で推移した。
- インバウンド延べ宿泊者数は前年比108.1%となる約1億7,780万人泊に達し、過去最高値を記録した。
- 一方で、宿泊費の高騰等の影響により、国内旅行者は前年をやや下回る結果となった。
- 客室稼働率の年間平均は61.8%となり、前年比で2.2ポイント上昇した。

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和7年各月2次速報公表データ
令和6年確定値データ



2025年年間平均：61.8%

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和6年確定値、令和7年各月2次速報公表データ

・ 2025年1～12月 外国人延べ宿泊者数

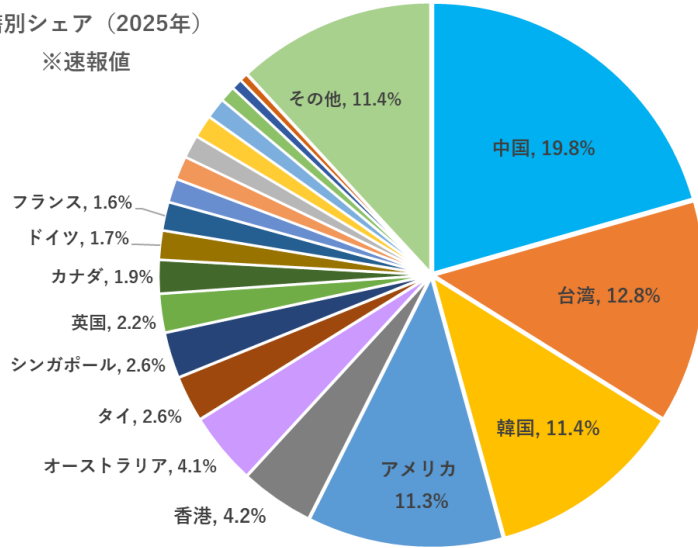
拡大推計値・速報

【国籍別分析】

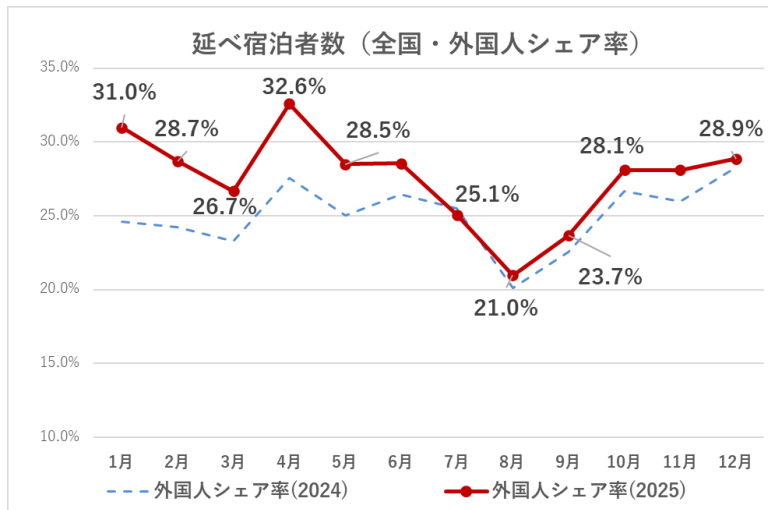
全国 外国人延べ宿泊者数

国籍別シェア（2025年）

※速報値



【インバウンド比率推移】



順位	国籍（出身地）	合計		前年比
		（人泊）	シェア	
第1位	中国	30,397,280	19.8%	+20.6%
第2位	台湾	19,691,500	12.8%	+7.0%
第3位	韓国	17,478,680	11.4%	-2.9%
第4位	米国	17,286,320	11.3%	+19.3%
第5位	香港	6,507,860	4.2%	-16.4%
第6位	オーストラリア	6,348,040	4.1%	+12.2%
第7位	タイ	4,056,590	2.6%	+5.9%
第8位	シンガポール	4,043,810	2.6%	-2.3%
第9位	英国	3,403,180	2.2%	+22.1%
第10位	カナダ	2,939,250	1.9%	+23.6%
第11位	ドイツ	2,551,070	1.7%	+29.9%
第12位	フランス	2,504,850	1.6%	+14.5%
第13位	フィリピン	2,101,710	1.4%	+8.8%
第14位	イタリア	2,045,730	1.3%	+24.8%
第15位	マレーシア	2,022,470	1.3%	+13.0%
第16位	インドネシア	2,006,470	1.3%	+8.4%
第17位	スペイン	1,834,740	1.2%	+27.3%
第18位	インド	1,383,460	0.9%	+42.9%
第19位	ロシア	955,140	0.6%	+105.3%
第20位	ベトナム	704,190	0.5%	+0.9%
	その他	17,515,510	11.4%	+26.2%
	合計	153,528,850	100.0%	+10.8%

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年確定値、令和7年 各月2次速報
2025年（令和7年）年間値（速報値）報道発表資料

- ・ 国籍（出身地）別外国人延べ宿泊者数は、第1位が中国、第2位が台湾、第3位が韓国、第4位が米国、第5位が香港で、上位5ヵ国・地域で全体の59.5%を占める。
- ・ 前年と比較すると中国、米国等が大幅に増加しており、その他の国籍もおおむね前年比を上回っており、市場の多様化が進んでいると推測する。

【参考】 関西 年間延べ宿泊者数 推移・都道府県別

関西

国内

外国人

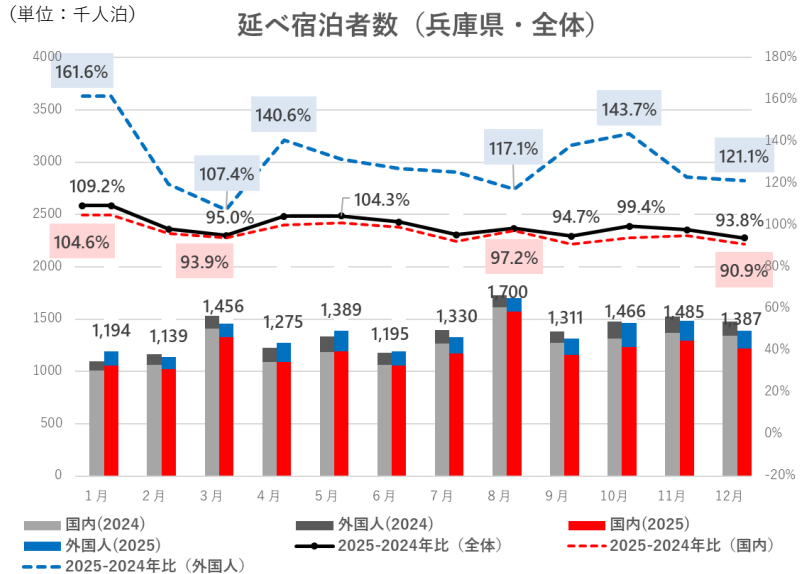
2025年
神戸観光
年間レポート



【兵庫県】 ※参考：客室稼働率（年間平均） 61.1%

拡大推計値・速報

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」
令和6年確定値・令和7年各月2次速報公表データを基に
神戸観光局で拡大推計値を独自試算



兵庫県

全体：1,632万人泊（前年比 98.9%）
国内：1,438万人泊（前年比 95.9%）
外国人：194万人泊（前年比 129.3%）

大阪府

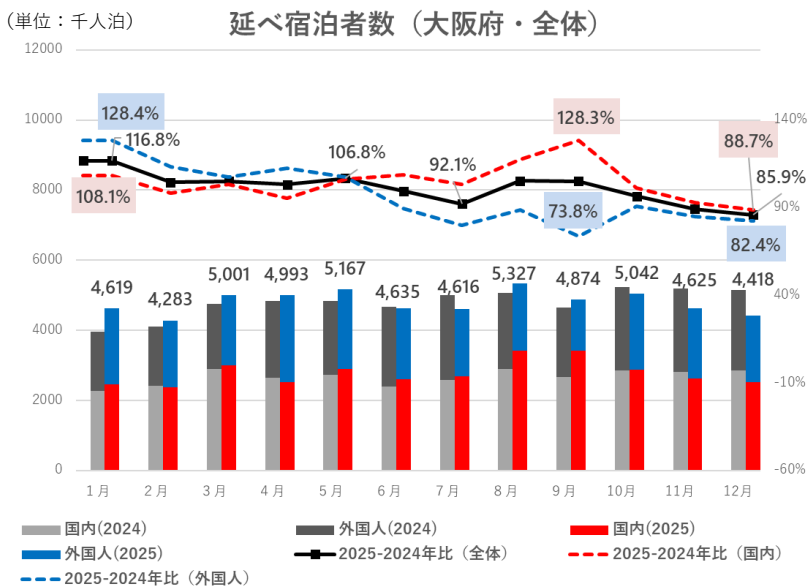
全体：5,760万人泊（前年比 100.3%）
国内：3,339万人泊（前年比 104.2%）
外国人：2,420万人泊（前年比 95.3%）

京都府

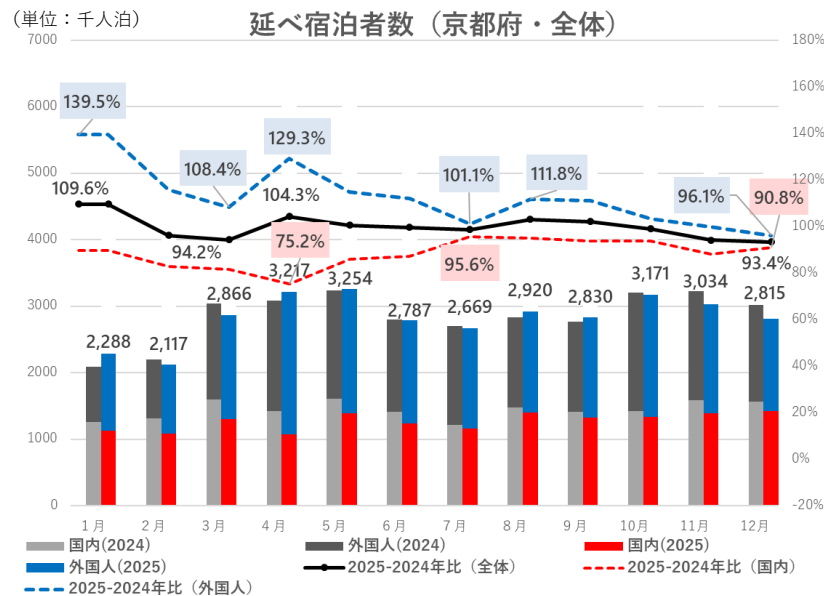
全体：3,396万人泊（前年比 99.3%）
国内：1,522万人泊（前年比 88.1%）
外国人：1,874万人泊（前年比 110.7%）

- ・ 兵庫県は、インバウンドが前年比約3割増加した。
- ・ 大阪府は、大阪・関西万博の影響で国内は増加したものの、インバウンドは減少した。京都府は、インバウンドが伸長する一方で、国内が約1割以上下回る水準となった。

【大阪府】 ※参考：客室稼働率（年間平均） 78.8%



【京都府】 ※参考：客室稼働率（年間平均） 66.7%



【参考】 関西 インバウンド国籍割合・都道府県別

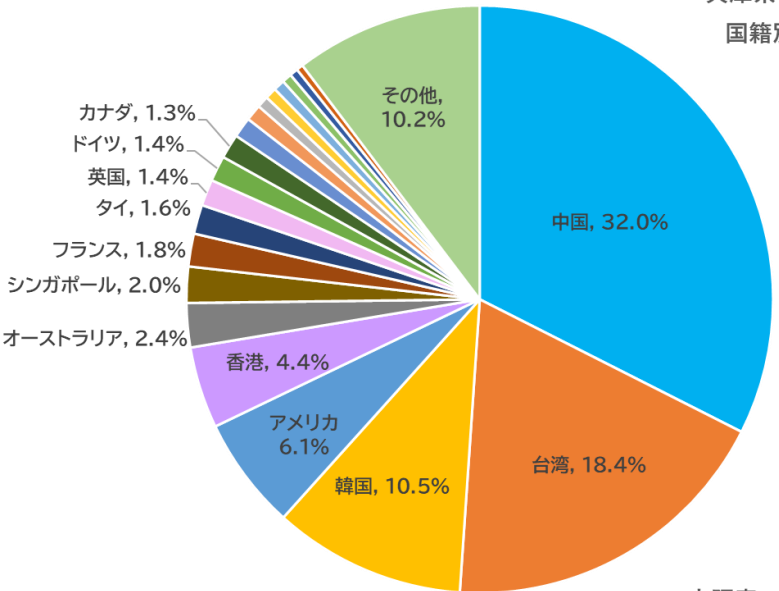
関西

外国人

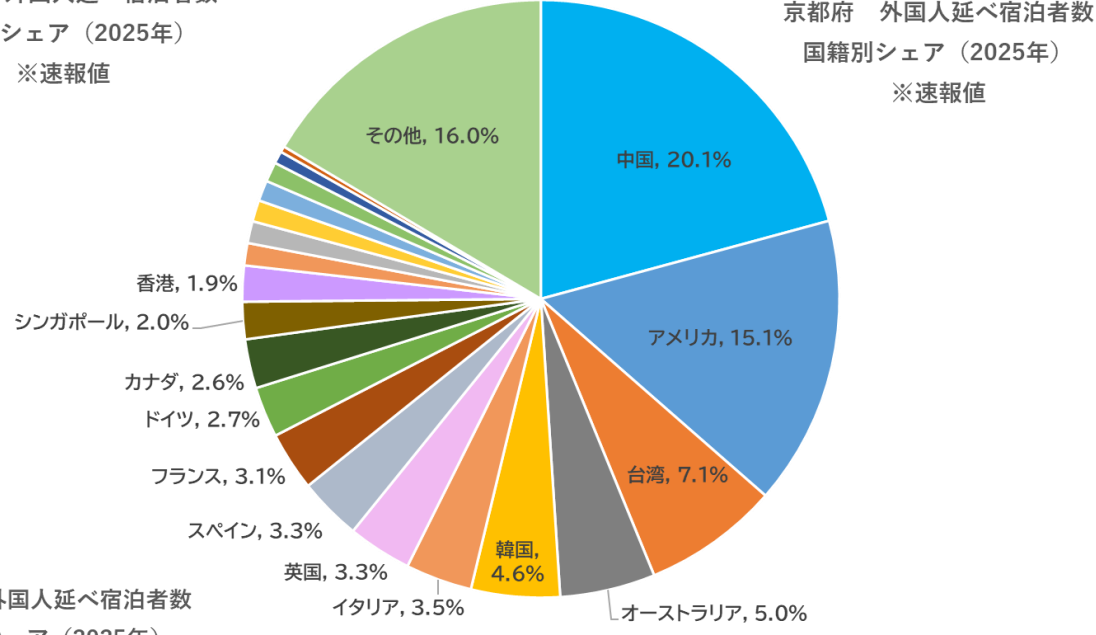
2025年
神戸観光
年間レポート



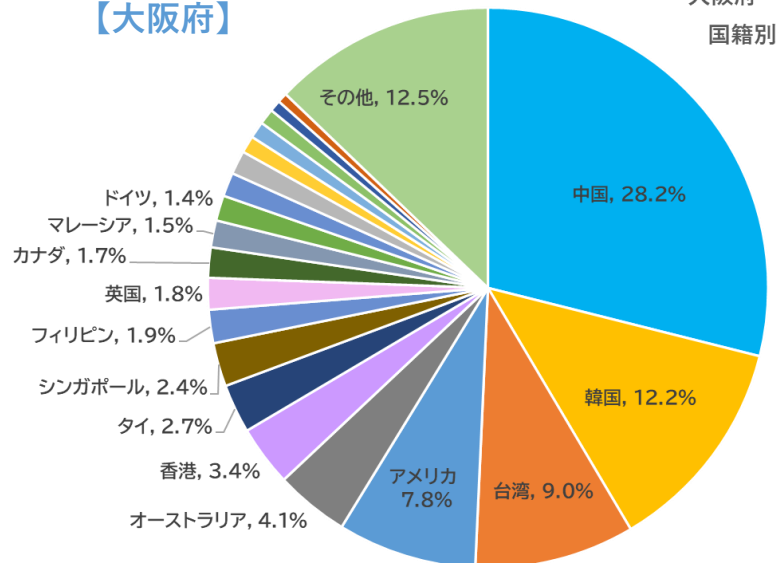
【兵庫県】



【京都府】



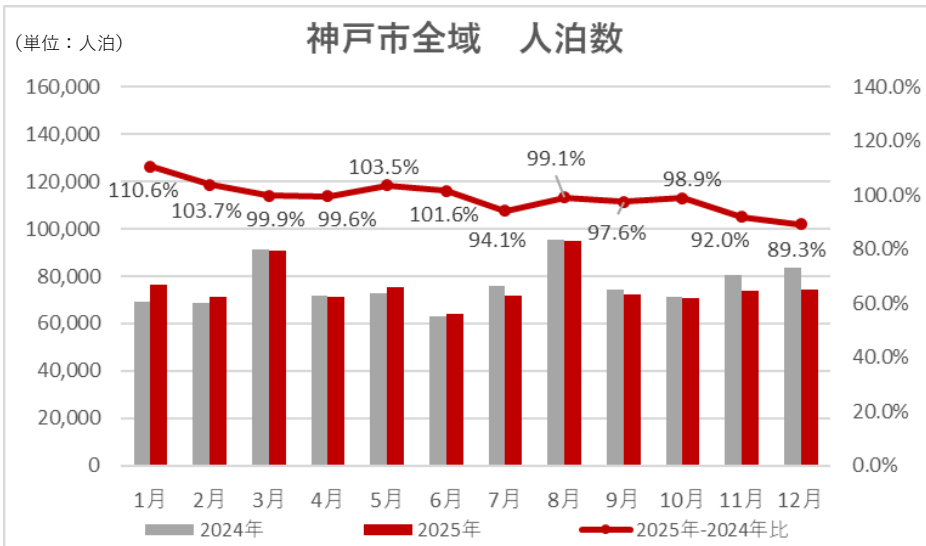
【大阪府】



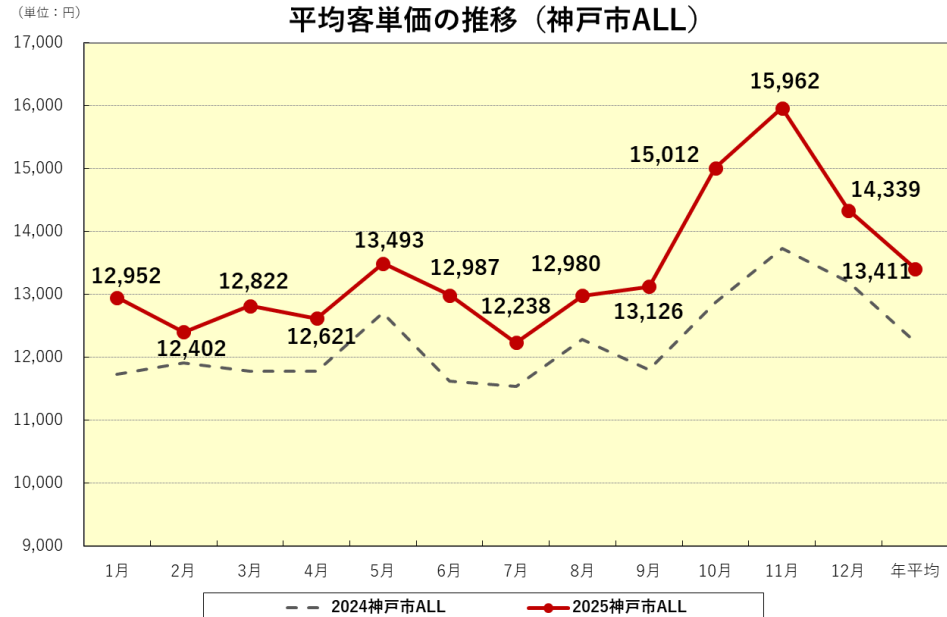
・関西圏においては、各都道府県ごとに国籍構成に特徴が見られる。
 ・兵庫県は東アジアが65.3%と過半数を占め、そのうち中国・台湾の比率が半数を占める。
 ・大阪府は中国・韓国といった東アジアを中心としつつ、タイやシンガポールなどの東南アジア、さらにオーストラリアや米国など、より多様な国・地域からの来訪が見られる。
 ・京都府では欧米豪の比率が比較的高く、特に欧州からの来訪が多い点が特徴である。国別では、中国に次いで米国が15.1%を占めている。

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」令和7年各月2次速報公表データより

2. 国内OTAモニタリング



人泊数
2025年年間 前年比：98.9%



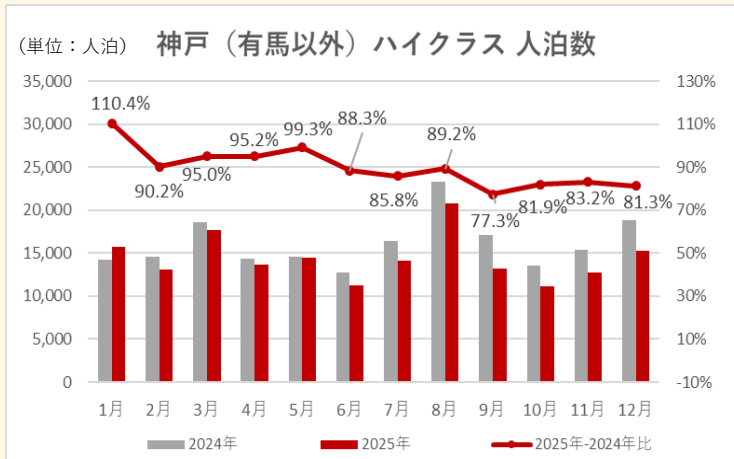
年間平均客単価
2025年 年平均 前年比：109.5%

- 神戸の国内観光におけるOTA実績について、2025年年間では人泊数が伸び悩んだものの、客単価の上昇により、取扱額（＝人泊数×客単価）の年間累計は堅調に推移した。
- 全エリア・クラスにおいて、インバウンド需要の高まりで客単価が上昇。2025年の年間平均は、前年比109.5%となる、13,411円を記録した。
- 人泊数については、上半期は前年と同水準、下半期は前年から減少傾向が続き、国内OTAにおける年間の延べ宿泊者数は前年比98.9%と微減した。
- 従来は年末年始、GWや夏休みに単価が高い傾向があったが、2025年はGWに加えて、9～12月に最も単価が高くなり、11月には大型学会の開催も数件あったことから、全市平均で客単価が年間最高値を記録した。
- 神戸空港国際化を契機として、4月以降はインバウンド比率が増加したことにより、国内旅行の繁忙期の予約がこれまでと比べて鈍化している傾向が見られ、紅葉シーズンや海外の連休シーズンに合わせて宿泊単価の上昇が顕著であった。

※OTAとは、「Online Travel Agent」の略称。オンライン上のみで旅行商品等を販売する旅行会社のこと。代表的な国内OTAは、じゃらんnet、楽天トラベル、一休、JTBるぶトラベル等。上記で掲載しているデータは、某国内大手OTA経由の状況を掲載。神戸市内の宿泊施設 約150施設への月別データ（チェックアウトベース）となっている。17
よって、国内旅行者の全ての販路を集計しているわけではないが、特に平日のビジネス需要も含めた個人旅行の傾向を分析するには有効なものと考えている。

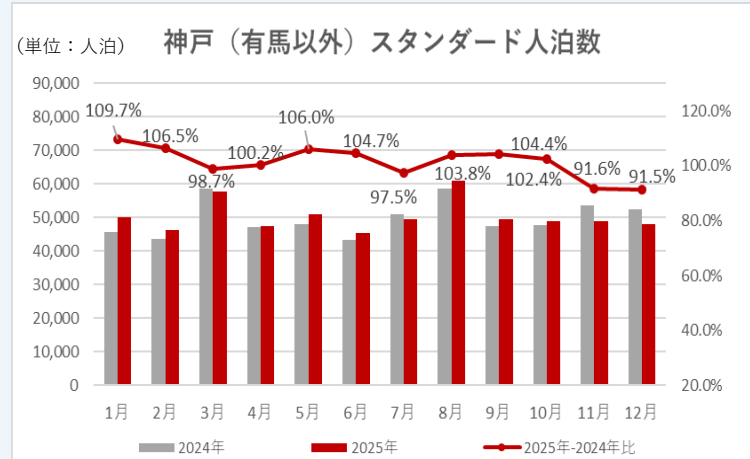
・予約人数（エリア別・グレード別）

ハイクラス



2025年年間 前年比：89.4%

スタンダード

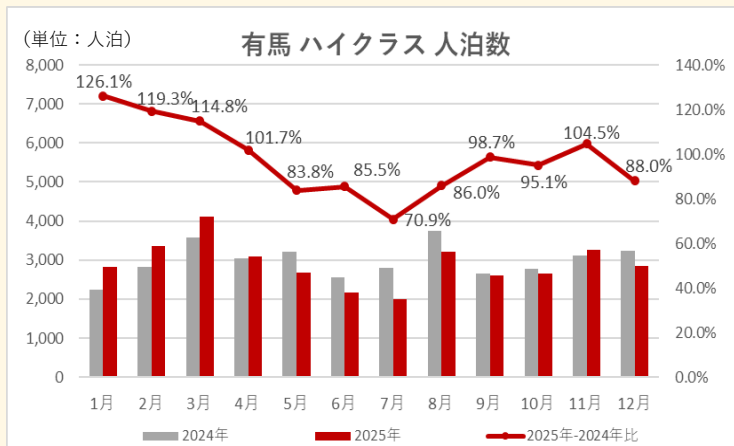


2025年年間 前年比：101.1%

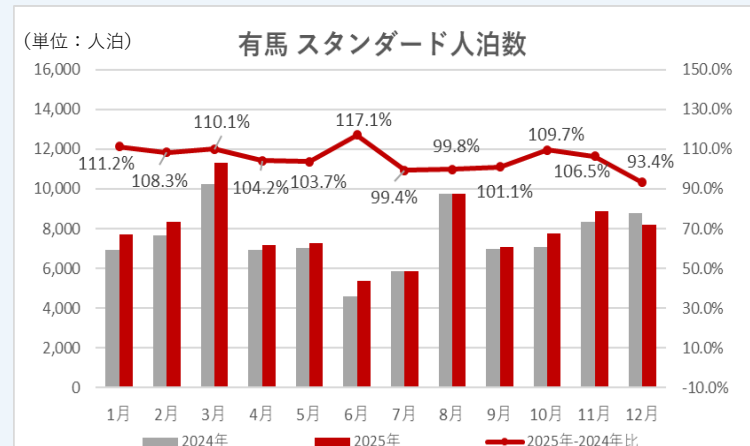
【市街地】

※有馬温泉除く
神戸市内

【有馬温泉】



2025年年間 前年比：97.4%

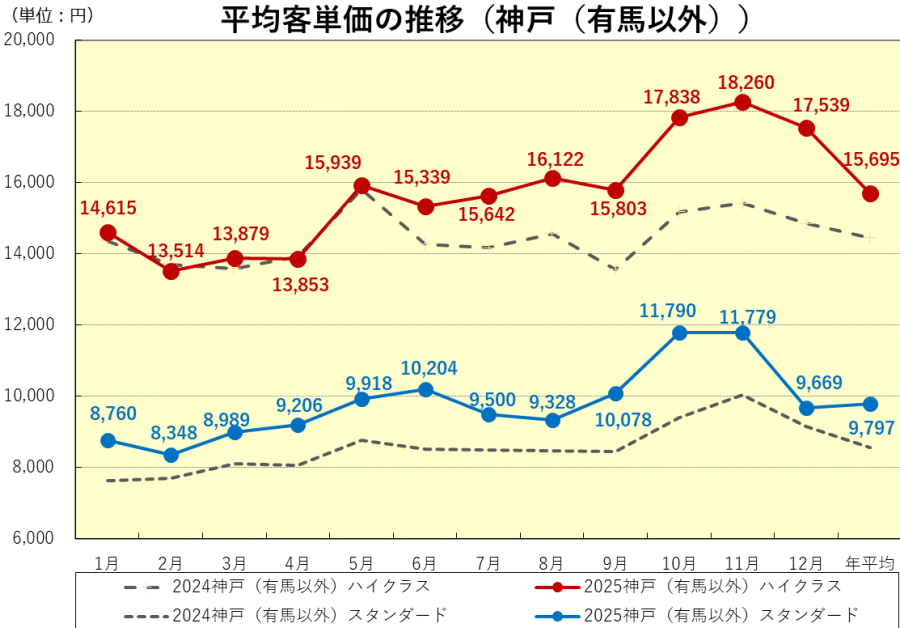


2025年年間 前年比：104.9%

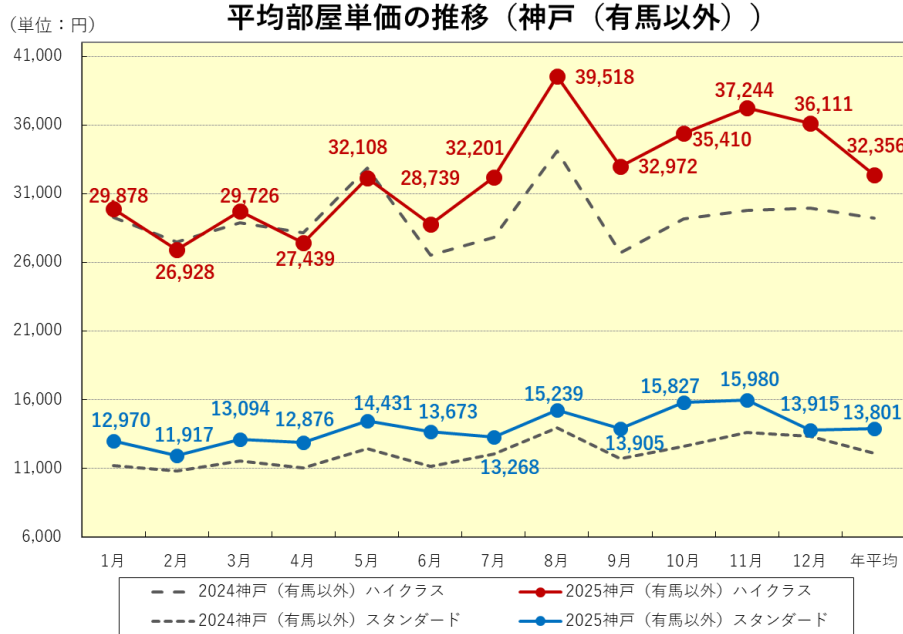
- 人泊数については、スタンダードホテルは堅調に推移しており、神戸が前年と同水準、有馬は前年比をやや上回った。
- 一方で、ハイクラスホテルにおいては、神戸では、前年比で1割減少した。
- 有馬のハイクラスは、5月～8月にかけて約2割減少している。

市街地エリア 単価推移

【平均客単価】



【平均部屋単価】



✓ 平均客単価の推移

- 神戸空港の国際化以降、平均単価の高止まりが続く。
 - 前年との年間平均を比較すると、神戸ハイクラスは108.6%
神戸スタンダードは114.4%と、それぞれ大きく増加した。
 - スタンダードでは6,10~11月、ハイクラスでは10~12月の上昇が顕著。
例年の国内需要が高まる繁忙期と異なることから、前年までの単価の推移と異なる。
- 4月中旬から開始した大阪・関西万博の影響で観光需要が拡大。
またインバウンド比率の増加により、紅葉シーズンに加え、国慶節や中秋節といった大型連休に合わせた旅行需要が増加し、結果として客単価の上昇につながったものと推測する。

✓ 平均部屋単価の推移

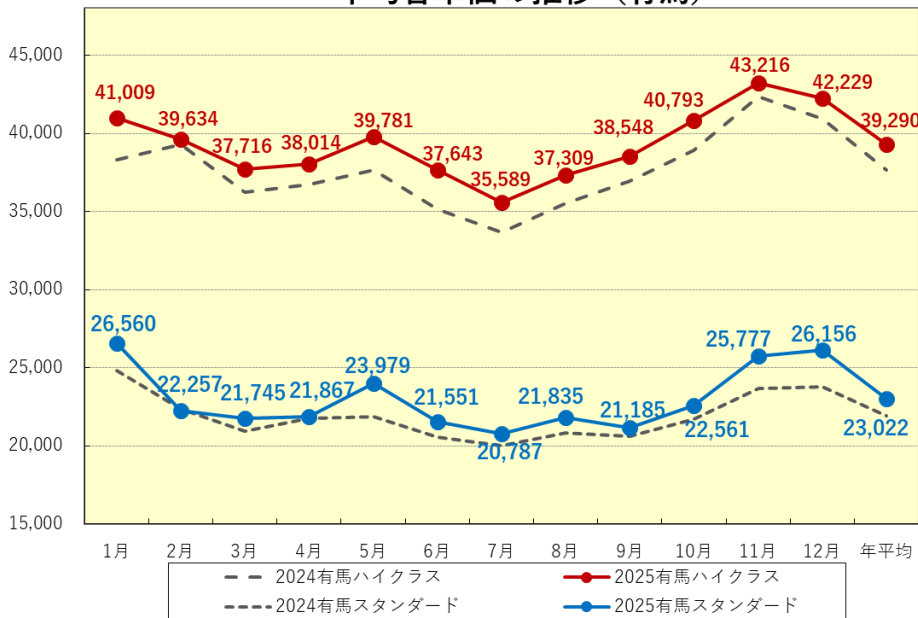
- 全クラスにおいて、8月および11月に部屋単価が高くなる傾向が見られる。
- 夏休みシーズンや教育旅行などの国内団体需要が集中する時期においてグループサイズが拡大しやすく、それに伴い部屋単価が上昇しやすいと推測する。
- 神戸ハイクラスでは、特に下半期を中心に前年比でシングル利用率が低下しており、グループサイズの拡大により部屋単価が高くなったものと推測している。

・有馬温泉エリア 単価推移

【平均客単価】

(単位：円)

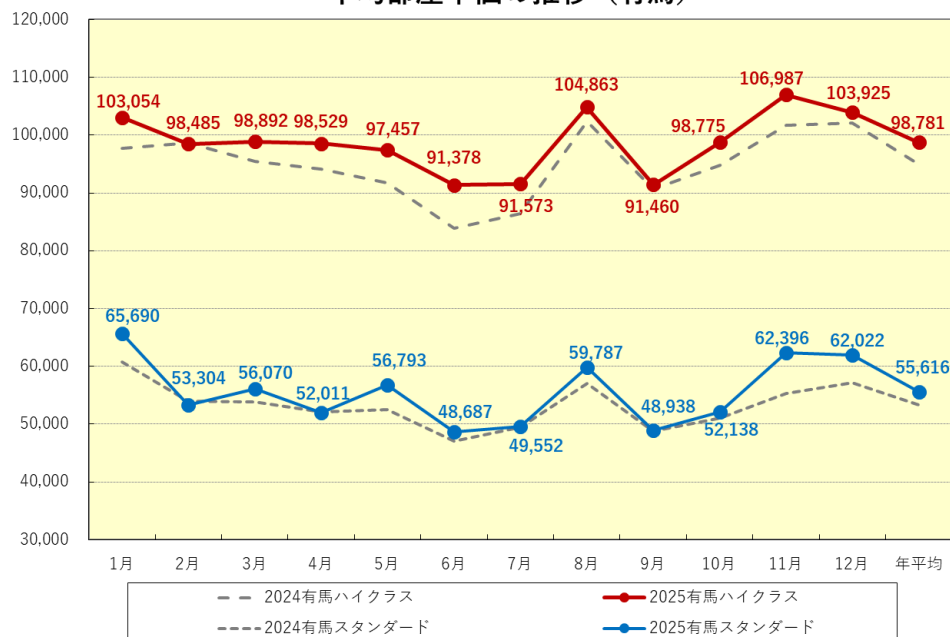
平均客単価の推移（有馬）



【平均部屋単価】

(単位：円)

平均部屋単価の推移（有馬）



✓ 平均客単価の推移

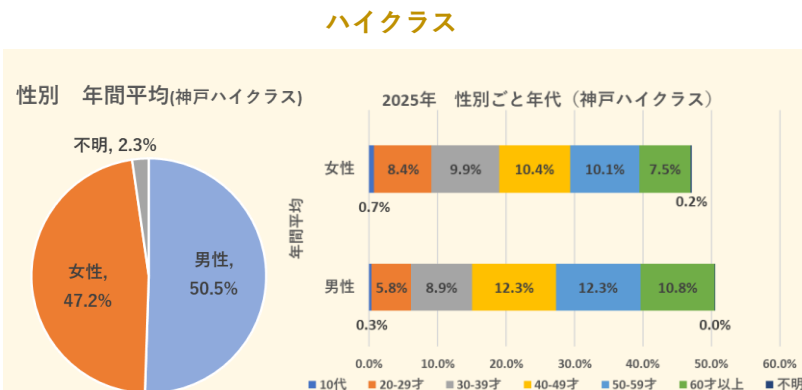
- ハイクラスでは5月～8月、スタンダードでは5月および11月～12月にかけて上昇が顕著であり、2024年との比較では全クラス平均で約105%の増加となった。
 - ハイクラスについては、前年と類似した単価推移を示している一方、スタンダードでは5月、11月、12月における上昇が顕著である。
- 大型連休や紅葉シーズンの旅行需要の増加が影響していると推測する。

✓ 平均部屋単価の推移

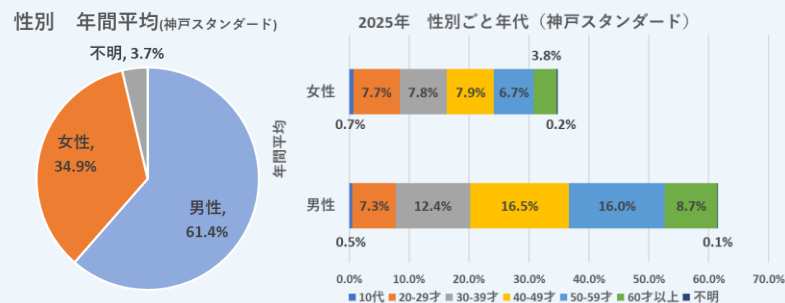
- ハイクラスは、春休み～ゴールデンウィークにかけての3月～6月において、前年と比較して上昇幅が特に大きくなった。
- スタンダードは、3月、5月、8月、11月、12月にかけて前年比の上昇幅が大きかった。
- 全クラスにおいて連休期間はグループサイズの増加に伴い、部屋単価が上昇しやすいと推測する。
- また、有馬ハイクラスの客室単価の年間平均は、前年比で約4,000円増加した。

・ 予約者属性：市街地（有馬温泉除く）

【性別・年代】



スタンダード



【グループサイズ】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみのグループ
1-3月	25.1%	45.4%	13.6%	15.9%	19.3%
4-6月	26.8%	46.9%	12.1%	14.2%	21.4%
7-9月	19.5%	45.2%	14.3%	21.0%	17.4%
10-12月	22.4%	51.0%	12.4%	14.2%	20.5%
年間平均	23.5%	47.1%	13.1%	16.3%	19.7%

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみのグループ
1-3月	58.7%	28.6%	6.0%	6.7%	20.5%
4-6月	62.5%	26.8%	5.1%	5.6%	21.5%
7-9月	58.8%	27.2%	6.0%	7.9%	19.8%
10-12月	62.4%	27.5%	5.3%	4.8%	21.9%
年間平均	60.6%	27.5%	5.6%	6.3%	20.9%

【居住地】

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	兵庫県	14.8%	兵庫県	13.4%	兵庫県	13.5%	兵庫県	12.4%
2位	大阪府	10.9%	東京都	10.8%	大阪府	11.1%	大阪府	10.5%
3位	東京都	10.3%	大阪府	9.7%	東京都	9.6%	東京都	9.9%
4位	愛知県	6.9%	愛知県	6.7%	愛知県	6.3%	愛知県	7.0%
5位	神奈川県	4.9%	神奈川県	5.7%	神奈川県	4.8%	神奈川県	4.9%

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	東京都	14.7%	東京都	15.8%	東京都	14.8%	東京都	15.9%
2位	兵庫県	13.5%	兵庫県	11.5%	兵庫県	10.6%	兵庫県	10.1%
3位	大阪府	7.5%	神奈川県	7.7%	神奈川県	7.5%	神奈川県	7.9%
4位	神奈川県	6.9%	大阪府	6.8%	大阪府	5.9%	大阪府	5.8%
5位	愛知県	5.7%	愛知県	5.6%	その他+不明	5.7%	愛知県	5.7%

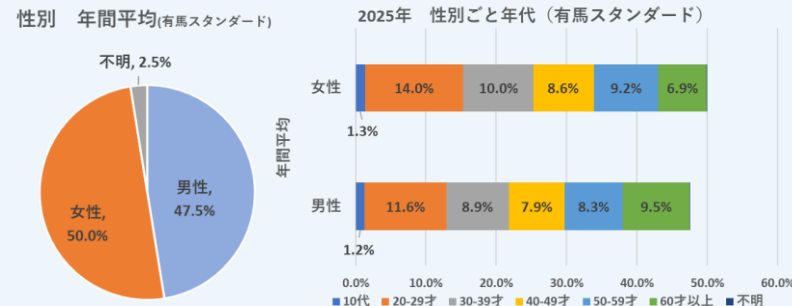
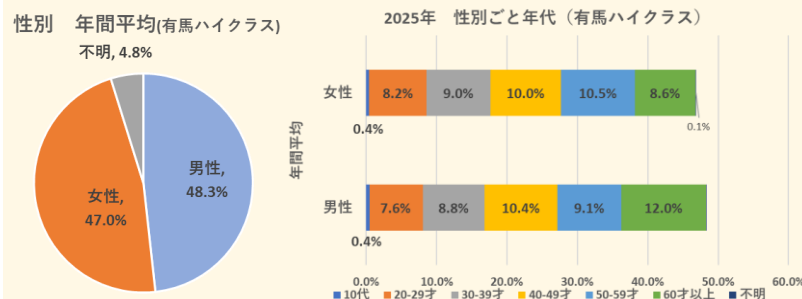
- 有馬を除く神戸市内では、国内OTAの特徴である平日のビジネス利用の傾向が強い構成となっている。
- 特にスタンダードでは、予約者の6割が男性で、40～50代の年代が最も多い。また、グループサイズは1名利用が最多となった。
- 一方ハイクラスでは、男女比はほぼ均衡しており年代構成もスタンダードと比較して分散している。グループサイズは2名利用が最多となった。
- 前年と比較すると、大阪・関西万博の影響で近隣からの旅行需要が減少し、宿泊者のシェアが高い大阪府・兵庫県において年間を通じてシェア率の低下が見受けられた。

・ 予約者属性：有馬温泉

ハイクラス

スタンダード

【性別・年代】



【グループサイズ】

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月	4.1%	58.3%	23.4%	14.2%	15.7%
4-6月	4.5%	57.3%	25.3%	12.9%	14.3%
7-9月	4.1%	57.1%	23.0%	15.8%	12.8%
10-12月	4.1%	62.5%	23.4%	10.0%	14.8%
年間平均	4.2%	58.8%	23.8%	13.2%	14.4%

グループサイズ	1人	2人	グループ (3人以上)	ファミリー	女性のみグループ
1-3月平均	7.9%	57.0%	21.6%	13.5%	20.5%
4-6月平均	12.2%	55.5%	18.7%	13.6%	18.3%
7-9月平均	10.2%	52.9%	17.8%	19.2%	14.3%
10-12月平均	10.4%	56.3%	20.4%	12.9%	19.5%
年間平均	10.2%	55.4%	19.6%	14.8%	18.1%

【居住地】

順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	23.0%	大阪府	21.4%	大阪府	19.4%	大阪府	18.6%
2位	兵庫県	13.4%	兵庫県	13.5%	兵庫県	13.6%	その他+不明	13.3%
3位	愛知県	8.0%	愛知県	7.1%	その他+不明	7.5%	兵庫県	10.6%
4位	東京都	7.0%	東京都	7.0%	愛知県	7.2%	東京都	8.2%
5位	その他+不明	5.0%	京都府	4.3%	東京都	7.1%	愛知県	7.2%

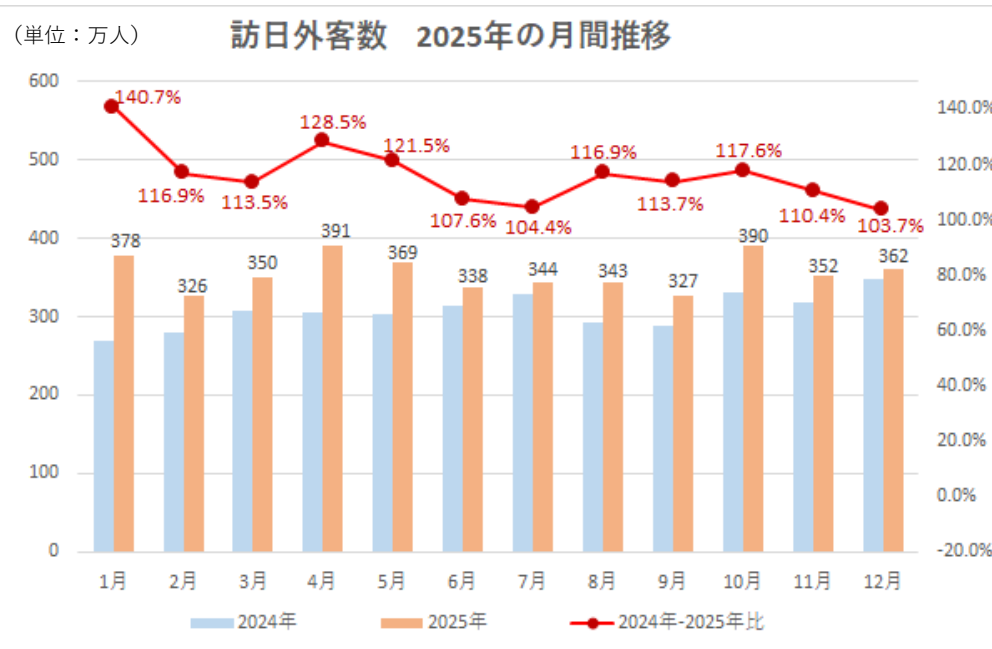
順位	1-3月平均		4-6月平均		7-9月平均		10-12月平均	
	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率	居住地	比率
1位	大阪府	20.9%	大阪府	18.7%	大阪府	17.2%	大阪府	16.1%
2位	兵庫県	11.9%	兵庫県	11.6%	兵庫県	12.0%	兵庫県	10.3%
3位	愛知県	9.3%	愛知県	8.7%	愛知県	8.7%	愛知県	8.9%
4位	東京都	6.6%	東京都	7.6%	東京都	7.9%	東京都	7.5%
5位	京都府	5.6%	京都府	4.4%	神奈川県	4.2%	その他+不明	5.6%

- 有馬エリアは、神戸市内（有馬以外）と比較して、クラスを問わず男女比はほぼ均等となっており、予約者は大阪府からが最も多い傾向が見られた。
- クラス別に見ると、スタンダードでは男女ともに若年層の割合が高く、ハイクラスと比較して女性グループの比率が高い傾向にある。
- 一方ハイクラスでは、30代以上の層が幅広く分布しており、2名利用やグループでの予約が多い傾向が確認された。

3. 全国インバウンド情報

2025年訪日外客数：42,683,837人

初の4,000万人を突破し、**過去最高を更新**／前年比**+15.8%**に。



2025年総数：上位10か国

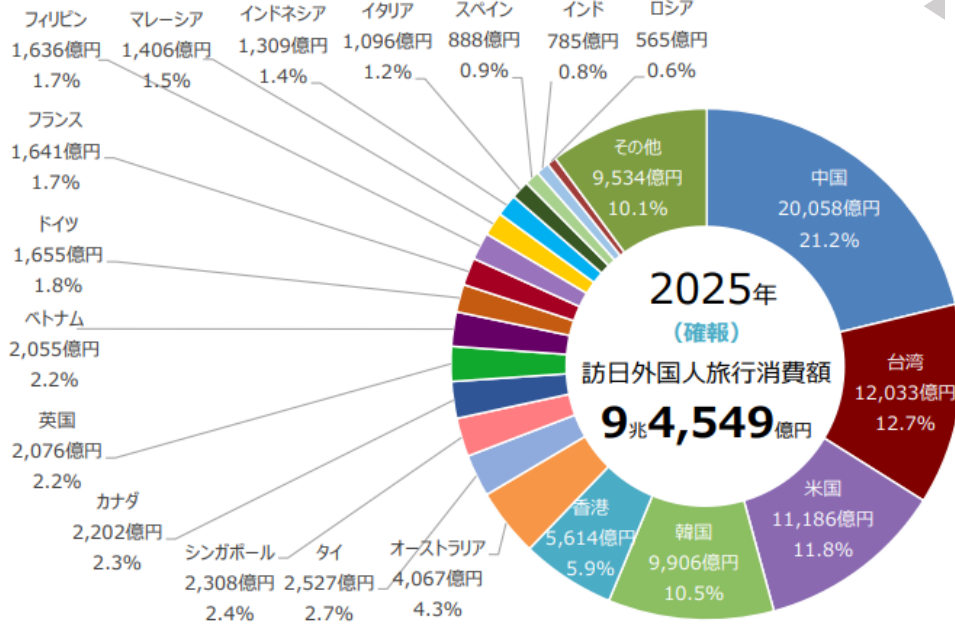
国・地域	2025年総数		前年比 (%)	2024年 1月～12月
	2025年 1月～12月	順位		
韓国	9,459,711	1位	107.3%	8,817,765
中国	9,096,455	2位	130.3%	6,981,342
台湾	6,763,424	3位	111.9%	6,044,316
米国	3,306,823	4位	121.4%	2,724,594
香港	2,517,402	5位	93.8%	2,683,391
タイ	1,233,103	6位	107.3%	1,148,848
豪州	1,058,396	7位	115.0%	920,196
フィリピン	885,023	8位	108.1%	818,659
シンガポール	726,251	9位	105.1%	691,226
カナダ	688,021	10位	118.7%	579,445

オレンジ…東アジア、黄色…東南アジア、欧米豪…緑

2025年の訪日外客数は4,200万人を突破 前年の15.8%増、年間過去最高を記録

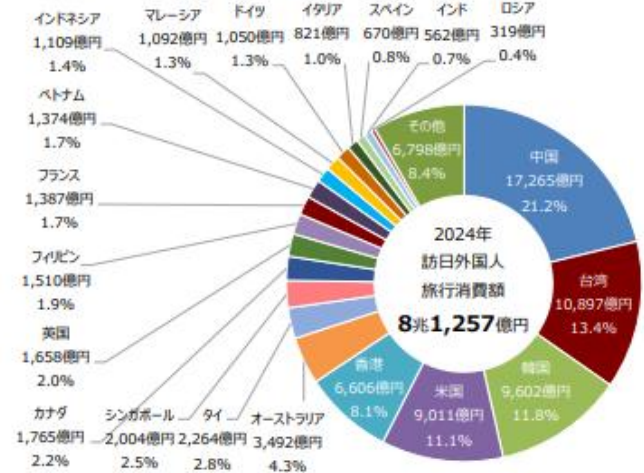
- 2025年の訪日外客数は42,683,837人（暫定値）に達し、前年比115.8%と堅調な伸びを見せた。過去最高であった2024年の実績（36,870,148人・確定値）を約580万人以上上回る数値であり、統計開始以来、初めて4,000万人の大台を突破して、過去最高を更新した。
- 市場別の動向：全23市場のうち20市場で年間累計が過去最高を記録。東アジア市場においては、日本で大規模災害が起こるかもしれないという香港での噂や、中国政府による11月中旬以降の渡航勧告、またそれらに伴う減便の影響により、一部の月で前年を下回る動きが見られた。しかし、年間を通じた総数では、香港を除く主要市場で前年を上回る結果となった。
- 欧米豪・東南アジア市場：いずれも年間を通じて着実に実績を積み上げ、全ての市場国・地域で前年を上回る高水準を維持した。とりわけ、これまでトップ10圏外であったカナダが初めて10位にランクインしたことは、北米を含む欧米豪諸国における訪日旅行人気の高まりを象徴している。

【図表1】国籍・地域別にみる訪日外国人旅行消費額と構成比

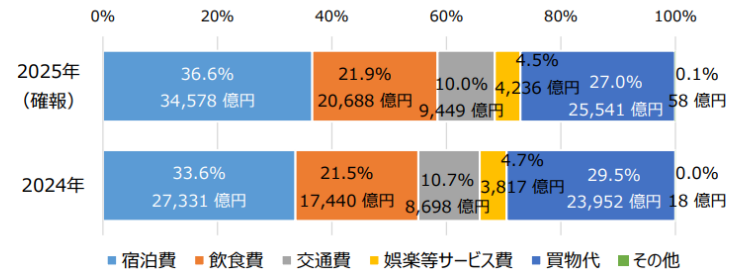


国籍別の動向として、渡航勧告の影響があったにもかかわらず中国市場のシェアは昨年と変わらない。米国が韓国を抜き国別で3位に。2位の台湾との差も縮まっている。

【参考】2024年暦年



【図表2】訪日外国人旅行消費額の費目別構成比



2024年に引き続き、ホテル単価の上昇から、宿泊費の割合が増加しており、3分の1以上の割合を占める。また、前年より「買物代」の割合が減少。中国政府による渡航制限の影響と思われる。「飲食費」は微増している一方で「交通費」「サービス費」は減少となった。

出典：観光庁「【インバウンド消費動向調査】2025年暦年の調査結果（確報）の概要」
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001992584.pdf>

2025年計 9.5兆円と過去最高。前年比116%となった。

- ・2025年計 9兆4,549億円（前年比116.4%）と過去最高を記録。前年より約1.3兆円上回る結果となった。
- ・消費額増加の要因としては、円安や宿泊日数の増加などだけでなく、物価の上昇なども大きいと見られる。真に稼げる地域が増えたか、引き続き注視が必要。
- ・政府目標である2030年「15兆円」の達成にはまだ道半ばであり、更なる消費額の拡大が求められる。

【図表6】国籍・地域別にみる一般客1人当たり費目別旅行支出（観光・レジャー目的）

2025年暦年		(確報)		(円/人)					(泊)	※概算	
国籍・地域	訪日外国人1人当たり旅行支出【観光・レジャー目的】		宿泊費	飲食費	交通費	娯楽等 サービス費	買物代	その他	平均泊数 注		1泊あたり (総額÷ 平均泊数)
	総額	前年比							前年差	前年差	
全国籍・地域	224,583	+0.5%	80,712	48,777	23,226	9,918	61,830	120	7.1	+0.3泊	31,631
韓国	101,990	-1.7%	35,152	27,734	8,481	5,052	25,556	15	3.4	-0.1泊	29,997
台湾	181,769	-1.3%	57,563	38,902	17,811	7,452	59,870	170	5.6	+0.1泊	32,459
香港	227,222	-7.4%	75,072	54,347	20,635	7,349	69,808	11	6.0	-0.2泊	37,870
中国	237,152	-11.7%	68,632	48,820	19,596	8,267	91,809	28	6.4	-0.2泊	37,055
タイ	204,618	+1.2%	64,701	44,623	20,964	6,754	67,576	0	5.9	-0.2泊	34,681
シンガポール	325,886	+11.9%	118,557	66,610	31,513	9,277	99,925	5	9.0	+0.7泊	36,210
マレーシア	234,706	+6.6%	77,608	49,457	26,721	10,034	70,823	63	7.6	+0.0泊	30,882
インドネシア	198,185	-9.1%	72,913	37,789	26,945	8,842	51,602	93	8.6	+0.6泊	23,045
フィリピン	201,078	-2.2%	68,264	40,329	19,211	9,341	63,782	152	7.9	+0.3泊	25,453
ベトナム	190,328	+1.8%	68,537	41,600	18,804	5,198	56,188	0	6.6	+0.0泊	28,838
インド	277,403	+4.4%	122,111	51,953	39,261	14,612	49,465	0	10.0	+0.2泊	27,740
英国	411,337	+4.0%	202,648	85,534	52,019	16,834	54,302	0	12.8	+0.3泊	32,136
ドイツ	416,393	+13.8%	189,714	83,506	59,034	17,508	66,600	31	15.2	-0.2泊	27,394
フランス	371,762	+0.5%	160,974	75,681	52,125	14,700	68,283	0	16.5	+1.4泊	22,531
イタリア	349,529	-6.2%	143,457	84,279	56,063	15,900	49,429	402	13.4	+0.4泊	26,084
スペイン	371,550	+1.8%	158,346	85,852	52,020	13,645	61,645	42	13.1	-0.5泊	28,363
ロシア	317,991	+3.8%	140,723	62,795	30,266	11,097	73,110	0	10.7	-0.2泊	29,719
米国	350,133	+0.4%	151,033	69,704	42,074	15,620	71,630	72	10.7	+0.2泊	32,723
カナダ	329,617	-1.6%	134,921	72,889	44,018	20,839	56,902	46	12.5	+0.0泊	26,369
オーストラリア	403,966	+1.2%	166,240	86,467	44,206	37,288	69,685	81	13.2	-0.5泊	30,603
その他	404,045	+8.4%	168,326	84,339	50,105	21,293	78,828	1,153	15.2	+1.3泊	26,582

出典：観光庁「【インバウンド消費動向調査】2025年暦年の調査結果（確報）の概要」
<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001992584.pdf>

※「訪日外国人」には、観光・レジャー目的に加え、ビジネス目的や親族・知人訪問目的などで日本を訪れた外国人が含まれる。日本に居住している外国人は含まれない。

- ・消費動向調査（全目的）の1人あたり旅行支出は22万9千円（前年比100.9%）。
- ・「観光・レジャー目的のみ」の集計では、1人あたり旅行支出は平均22万5千円（前年比100.5%）。
1位ドイツ（41.6万円）、2位 英国（41.1万円）、3位 オーストラリア（40.4万円）
- ・1人1泊あたりの支出が最も多いのは、**香港（37,870円）、中国（37,055円）**
- ・ただし、物価高騰等の影響があるため、今後も消費額単価の達成状況を注視する必要がある。
- ・政府目標の2030年 訪日外国人旅行者数6,000万人、消費額15兆円を達成するための1人あたり単価は25万円。

・ 1泊あたりの平均消費単価

【地域別・費目別】

観光・レジャー	1泊あたり合計	1泊あたり平均									
	(平均)	宿泊費		飲食費		交通費		娯楽等サービス費		買物代	
東アジア	34,345	11,000	32%	7,994	23%	3,045	9%	1,354	4%	10,942	32%
韓国	29,997	10,339	34%	8,157	27%	2,494	8%	1,486	5%	7,516	25%
台湾	32,459	10,279	32%	6,947	21%	3,181	10%	1,331	4%	10,691	33%
香港	37,870	12,512	33%	9,058	24%	3,439	9%	1,225	3%	11,635	31%
中国	37,055	10,724	29%	7,628	21%	3,062	8%	1,292	3%	14,345	39%
東南アジア・インド	29,550	10,631	36%	6,038	20%	3,313	11%	1,162	4%	8,399	28%
ヨーロッパ	27,704	12,284	44%	5,918	21%	3,713	13%	1,106	4%	4,677	17%
北米・豪	29,899	12,480	42%	6,321	21%	3,619	12%	1,995	7%	5,479	18%

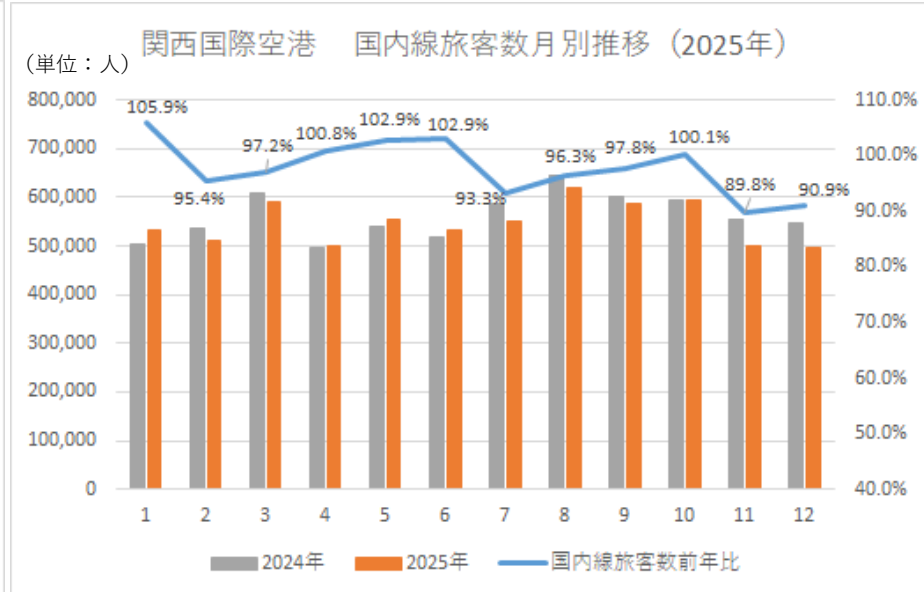
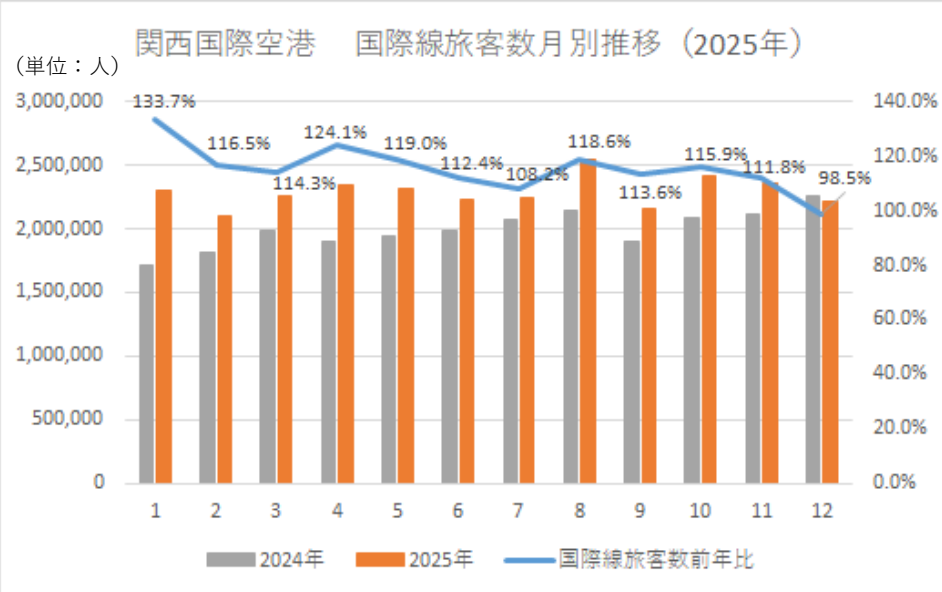
赤色背景：東アジア、東南アジア・インド、ヨーロッパ、北米・豪のエリアのうち、各費目で最も高いもの

黄色背景：東アジア4か国・地域のうち、各費目で最も高いもの

- ・ 「観光・レジャーのみ」の1人1泊あたり（項目別）を見ると、市場ごとの特徴が伺える。
- ・ 1泊あたりの合計支出額において、「東アジア」が34,345円で最も高く、次いで「北米・豪（29,899円）」「東南アジア・インド（29,550円）」、最も低いのが「ヨーロッパ（27,704円）」となっている。
- ・ 東アジア：1泊あたりの単価が他地域より高く、特に買物代の構成比が突出している。
- ・ 欧米豪：合計額は東アジアに及ばないが、宿泊費の構成比が4割を超え、滞在の質を重視する傾向が見られる。
- ・ 東アジア各国・地域の特性
 - － 韓国：合計額は東アジアの中では一番低いが、飲食費が27%と高く、食への関心の高さが分かる。
 - － 香港：宿泊費、飲食費、交通費において域内で最も高く、合計額も一番多い。
 - － 中国：全体に占める宿泊費の割合は東アジアの中で一番低い一方で、買物代は約4割を占めており購買意欲が依然として高い。

4. エアライン・クルーズ船情報

国際線好調により総旅客数は前年比111% 外国人旅客数計2,000万人突破（開港以来初） 前年比115%



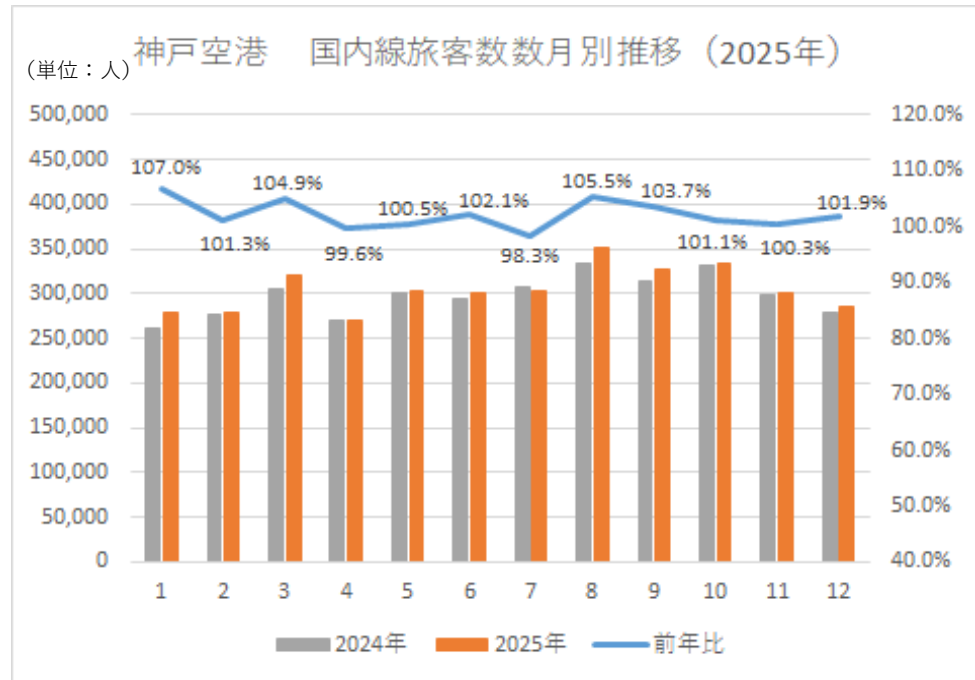
- ・関西国際空港の2025年総旅客数は34,090,431人で、前年を11%上回る顕著な伸びを記録した。
- ・国際線旅客数についても、中国政府による渡航勧告等の要因が重なり12月のみ前年割れとなったものの、年間では前年比約115%となり、前年実績を上回った。
- ・外国人旅客数は2,173万人となり、開港以来初めて2,000万人を突破した。ただし、11月中旬以降の渡航勧告の影響を受け、2026年は前年割れが続いていることから、今後の動向に留意する必要がある。
- ・一方、国内線旅客数は前年割れの月が多く、年間総計では前年比97.6%の微減となった。大阪・関西万博開催による周辺都市の宿泊費高騰に伴い、夏の繁忙期シーズンは国内旅行の需要が分散したことや、減便や機材小型化の影響もあり年間を通じて伸び悩みがみられた。今後は、フルサービスキャリアによる国内線縮小の動向を注視する必要がある。

関西国際空港	2025年総計
総旅客数(人)	34,090,431
総旅客数前年比	111.2%
国際線発着数(回)	167,228
国際線発着数前年比	115.2%
国際線旅客数(人)	27,528,387
国際線旅客数前年比	115.1%
うち外国人旅客数(人)	21,734,970
外国人旅客数前年比	114.9%
国内線旅客数(人)	6,571,307
国内線旅客数前年比	97.6%

出典：関西エアポートニュースリリースより作成
※国内線旅客数は発着者数計、国際線旅客数は出入国者数計となります。

国際化により新たな航空需要が創出 国際線旅客数は40万人 外国人比率は約8割

- ・国際線の総発着回数は2,759回、総旅客数は405,245人となった。
うち、外国人旅客数は334,885人で全体の約8割を占める。
- ・チャーター定期便（大韓航空、エバー航空、スターラックス航空、吉祥航空〔現在運休中〕）による送客が大部分を占める一方で、大型連休にはベトジェットエアのダナン線、スカイマーク航空による桃園（台北）線など、単発チャーター便の運航もあるなど、国際化の進展が見られる。
一方、11月下旬以降、中国政府による渡航勧告の影響で中国便の運休が続いており、今後の動向を注視する必要がある。
- ・国内線はフジドリームエアラインズによる花巻線の運休などにより一部減便が見られたものの、トキエアの新潟線就航などもあり、全体としては安定した送客を維持した。発着数、旅客数ともに前年をわずかに上回って着地した。



神戸空港国際線	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2025年総計
国際線発着数(回)	-	-	-	161	356	327	328	319	321	353	312	282	2,759
国際線旅客数(人)	-	-	-	23,563	52,010	48,439	43,763	48,947	45,847	51,508	48,043	43,125	405,245
うち外国人旅客数(人)	-	-	-	20,455	45,424	41,277	35,853	37,714	36,161	43,252	39,105	35,644	334,885
国内線発着数(回)	2,837	2,627	2,800	2,780	2,886	2,770	2,846	2,890	2,757	2,836	2,720	2,775	33,524
国内線発着数前年比	103%	98%	95%	100%	100%	108%	109%	106%	97%	97%	98%	98%	101%
国内線旅客数(人)	278,705	279,971	319,864	269,532	302,869	301,024	303,456	352,073	326,913	334,480	300,537	285,186	3,654,610
国内線旅客数前年比	107%	101%	105%	100%	101%	102%	98%	106%	104%	101%	100%	102%	102%

出典：関西エアポートニュースリリースより作成

※国内線旅客数は発着者数計、国際線旅客数は出入国者数計となります。

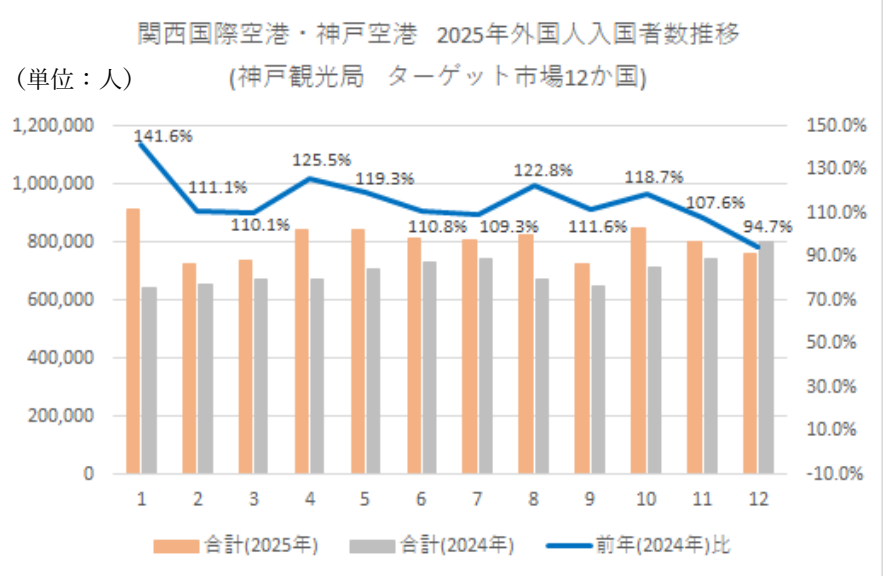
神戸観光局のターゲット市場国からの関西国際空港及び神戸空港合算の入国者数を算出

2025年 (人数)	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	前年比	(参考) うち神戸空 港合計
中国	351,464	250,933	250,577	303,797	309,580	332,673	396,838	414,235	296,540	279,299	229,848	107,394	3,523,178	142.0%	42,010
韓国	257,911	227,854	184,906	196,872	222,045	190,917	161,672	158,896	169,486	233,367	237,550	275,661	2,517,137	100.4%	48,173
台湾	127,366	107,150	105,543	107,448	118,290	124,059	121,193	127,204	112,745	126,110	113,840	124,652	1,415,600	105.2%	69,023
香港	56,294	40,713	48,174	67,181	49,601	42,050	42,718	55,216	34,998	48,946	55,021	70,150	611,062	84.7%	287
米国	17,886	15,897	35,483	35,253	32,228	41,213	33,258	21,613	24,241	35,463	36,166	27,326	356,027	125.2%	1,714
タイ	22,437	27,019	37,910	42,048	31,685	16,801	13,171	9,791	16,125	34,257	32,402	42,024	325,670	104.1%	78
マレーシア	20,817	18,571	16,014	16,591	18,494	9,554	4,918	6,776	16,865	19,827	25,338	29,185	202,950	129.9%	90
豪州	24,796	13,252	13,082	22,864	15,102	12,118	8,633	7,583	19,299	17,956	16,698	23,635	195,018	125.6%	223
シンガポール	11,395	8,812	15,679	15,168	16,517	19,579	5,237	5,110	11,801	19,004	27,053	34,470	189,825	104.4%	110
インドネシア	13,893	9,600	13,361	12,863	10,521	11,981	6,959	5,642	8,707	9,935	10,774	17,465	131,701	118.1%	142
フランス	2,319	3,706	7,055	12,238	10,026	5,263	9,204	7,245	8,255	12,048	7,567	3,982	88,908	115.8%	216
英国	3,636	3,527	8,099	10,367	7,304	4,823	5,435	5,369	6,795	9,302	6,855	5,047	76,559	128.4%	130
合計(2025年)	910,214	727,034	735,883	842,690	841,393	811,031	809,236	824,680	725,857	845,514	799,112	760,991	9,633,635	114.8%	162,196

オレンジ…国別月間入国者数1位の月 赤枠 …国別年間入国者数上位5位

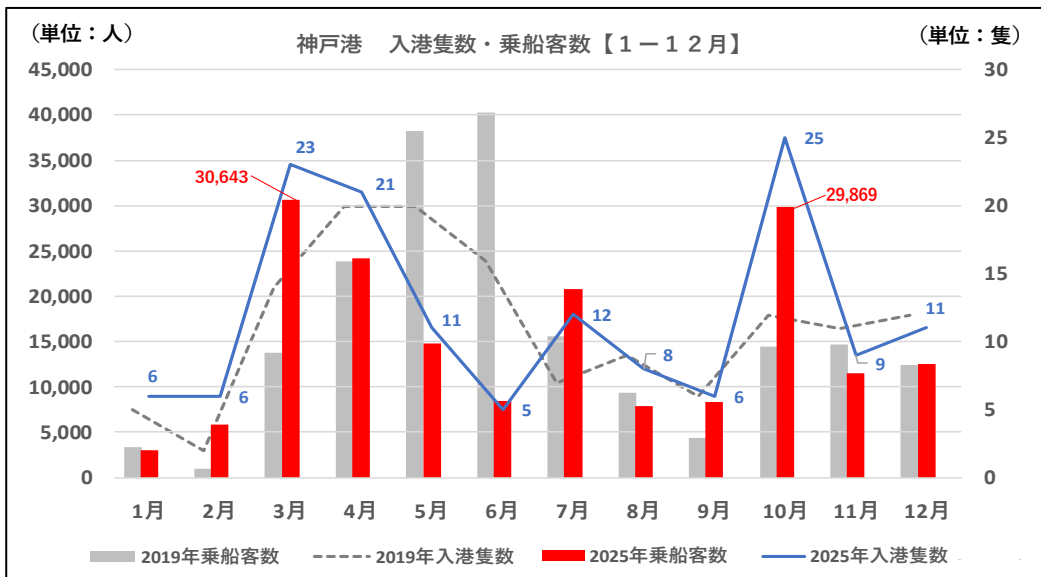
【全体概要】 ターゲット国12か国における関西国際空港及び4月以降の神戸空港の合計入国者数は、年間を通じて堅調に推移し、年間合計で前年比114.8%を記録した。月別では、12月こそ中国政府による渡航勧告の影響を受け前年を下回ったものの、その他の月はいずれも前年実績を上回る結果となった。

【各国のピーク時期】
 各国ともに、自国の長期休暇や学校休暇に合わせた訪日需要が顕著に表れている。
東アジア圏：旧正月(春節)や夏期・冬期休暇にあわせ1・8・12月にピークが集中した。例年、香港は12月に加え夏季休暇の7月も伸長する傾向にあるが、本年は日本での大災害の噂が影響し、伸びが見られなかった。
東南アジア：学校休暇にあたる12月に需要が集中する傾向にある。一方タイにおいては伝統的な正月(ソングラン)休暇がある4月に増加しており、独自の市場特性が見られる。
欧米豪：米国は学校休暇が本格化する6月に年間ピークを迎えた。南半球にある豪州は、夏休みシーズンである1月に最大のピークを記録。欧州に関しては桜シーズンを狙った訪日需要が鮮明となっている。



出典：総務省「出入国管理統計」より抜粋

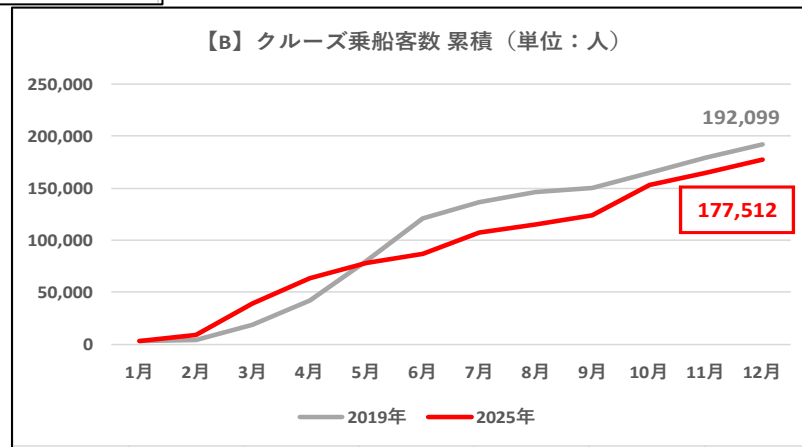
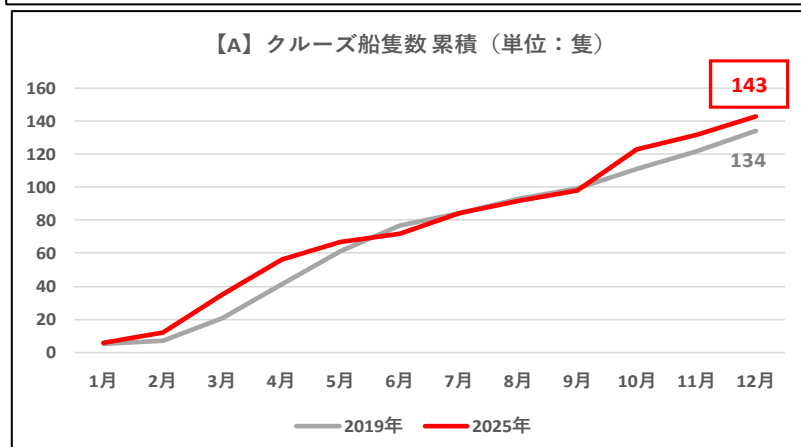
旅客ターミナル クルーズ船入港実績



2025年の入港隻数は、3月～4月にかけての春の入港ラッシュにおいて、コロナ前の2019年を上回り、それぞれ23隻および21隻で推移。そのうち外国籍船は3月に20隻（87%）および4月に19隻（90%）と、両月とも高い割合を占めた。

秋の入港ラッシュ時は、10月に25隻が入港し、単月の入港隻数としては2025年で最も多い月となった。

一方、船客数は3月に30,643人と2025年で最多となり、2019年同月比で大幅な伸びを示し、次いで10月の29,869人も同じく2019年同月比で大きく上回り、いずれも倍増となった。



【A】入港隻数累積

- 2025年は過去最多となる143隻が入港。2019年比107%となった。特に外国籍船は108隻で、2019年の65隻を大きく上回った。
- 増加の背景として、日本の船会社が運航する「飛鳥III」が神戸港に初就航したことに加え、世界のクルーズ市場の成長傾向や海外での日本ブーム、コロナ禍以降の中国発着クルーズの回復などによる外国籍船の大幅な増加がみられた。

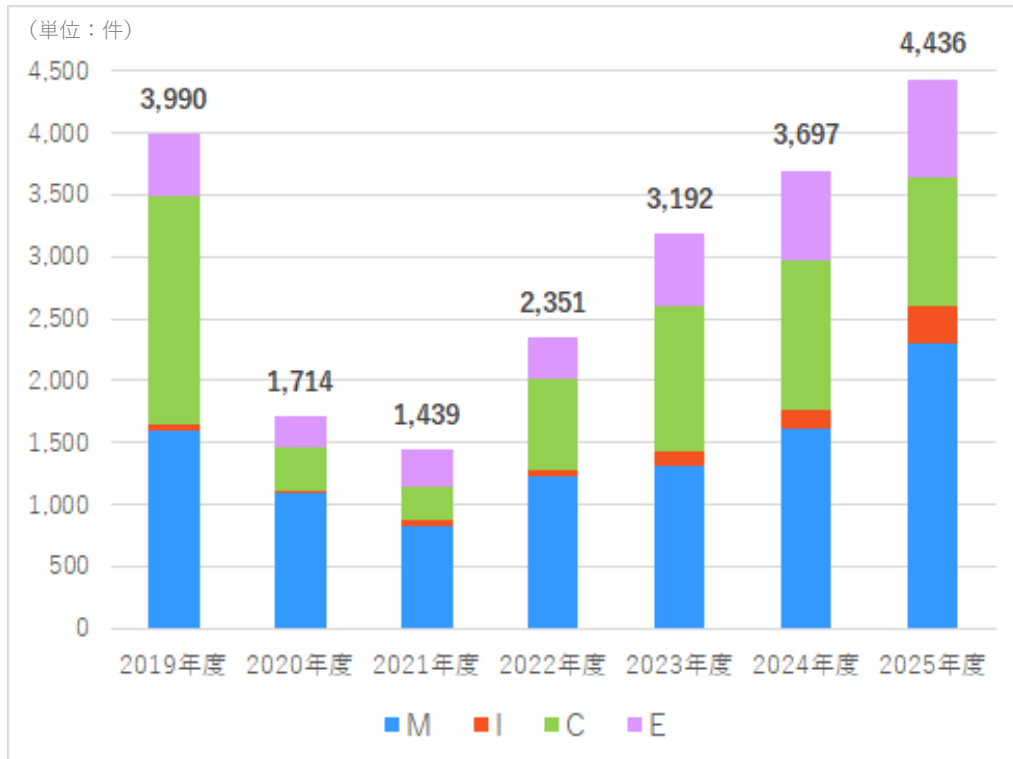
【B】乗船客数累積

- 2025年は177,512人で2019年比92%だった。
- 背景として、2019年は大型の外国籍船による神戸発着クルーズが複数回にわたって実施されていたことに加え、近年は旅客定員の少ないラグジュアリークラスの外国籍船の割合が増加していることが要因として考えられる。

5. MICE・観光施設・観光案内所 動向

～神戸観光局オリジナルデータ～

・神戸市内 MICE 開催総件数 年別推移



出典：2019年～2025年度：一般財団法人神戸観光局調べ
対象施設：市内MICE施設 28箇所（公共施設10か所、ホテル11箇所、その他7箇所）

主な大型学会開催実績（2025年度）

2025年	5月	神戸国際宝飾展	13,000人
	6月	日本麻酔科学会・学術集会	11,000人
		日本精神神経学会学術総会	5,200人
	11月	日本消化器関連学会週間	22,000人
		日本医療薬学会年会	9,600人
		Techno-Ocean 2025	9,700人
2026年	3月	日本再生医療学会総会	3,000人

※人数はオンライン参加者含む

M/I/C/E分類基準

M・・・企業・民間団体が主催する会議・研修等（50名以上）

I・・・企業が主催する報奨旅行

C・・・学協会等の非営利団体が主催する学会・会議等（50名以上）

E・・・展示会、イベント（50名以上）

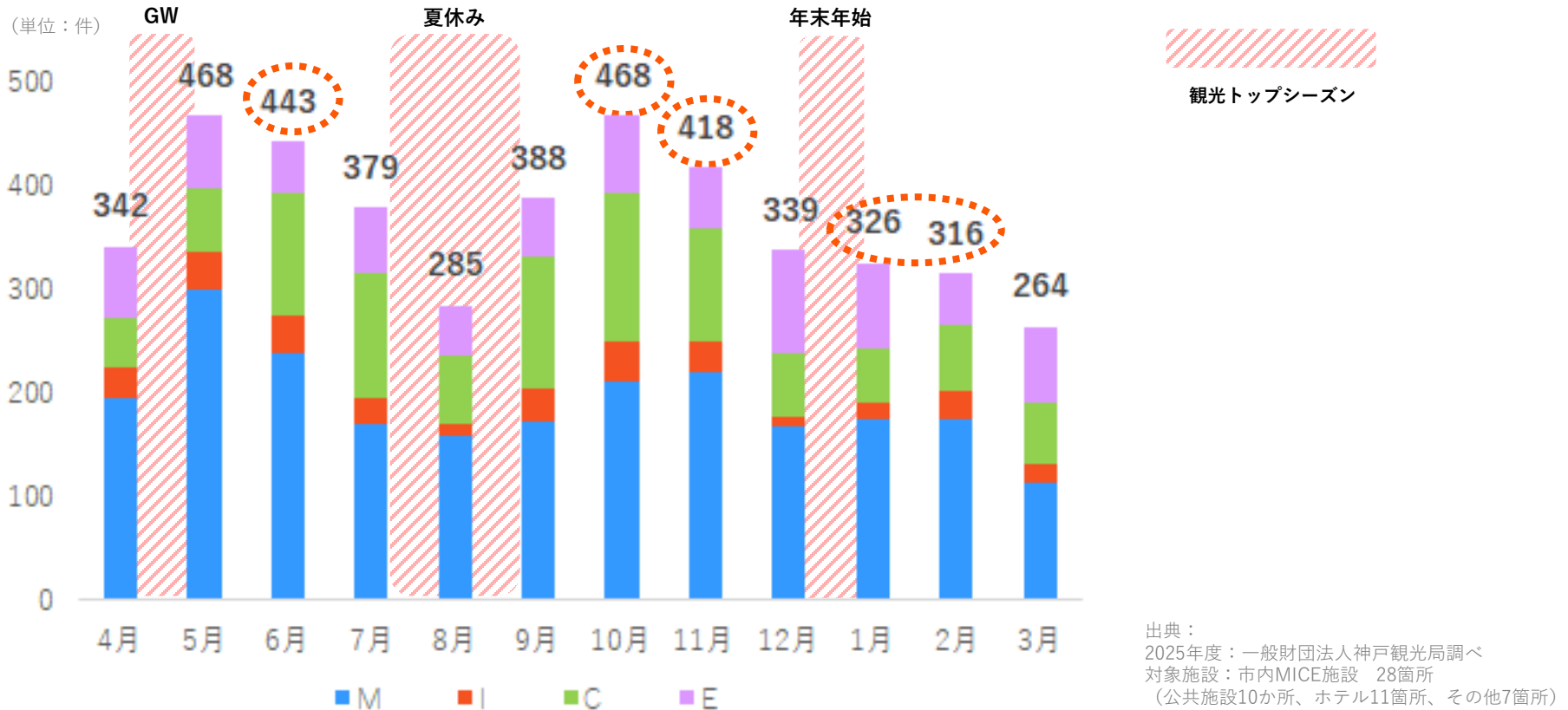
※コンサート、入学式/入社式/卒業式/学位授与式、50名に満たない会合を除く

2025年度計 4,436件（2019年比 111.1%）

- ・2025年4月～2026年3月の1年間で、神戸市内におけるMICE開催件数は4,436件に達し、コロナ禍からの回復が進んだ前年をさらに上回った。コロナ前比(2019年)で111.1%と、回復基調から一段の伸びを示し、2017年度の調査開始後、過去最高となった。
- ・5,000人以上の大型会議も継続して開催されており、多数の来訪者が神戸に集まることで、市内経済の活性化を大きく支えている。
- ・学会や会議である「Convention」については、関西万博開催の影響を懸念し、関西での開催を見送った学会・会議が見受けられたこともあり、昨年と比較して約15%減少した。一方で、企業主催の会議や研修である「Meeting」や企業の報奨旅行である「Incentive」が増加し、全体の開催件数が前年を上回る要因となった。

・MICE開催時期の傾向

2025年度 市内MICE月別開催件数



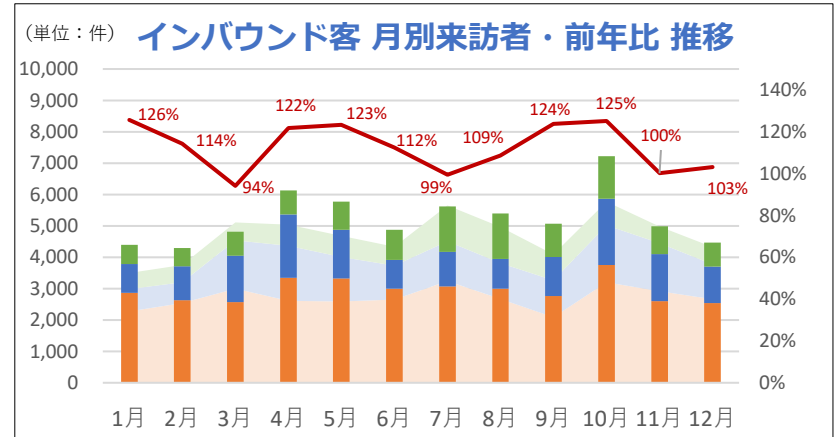
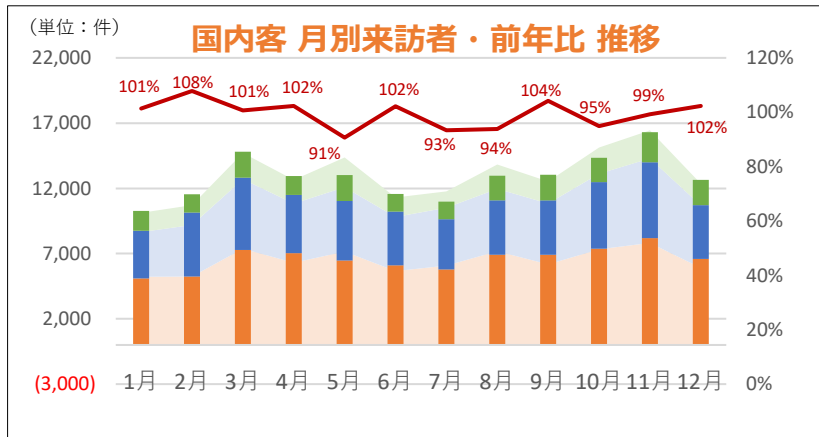
6月、10～11月でのMICE開催が多く、観光需要の平準化に大きく貢献。

2025年度の開催時期をみると、観光のトップシーズンと重ならない時期に、最も多くMICEが開催され（特に6月・10～11月）、さらに神戸市の観光の閑散期である1・2月においても安定して開催されている。これらのことから、昨年度同様、MICEが宿泊需要の平準化および市内消費の拡大に大きく貢献していることがうかがえる。

観光案内所：案内件数 月別・場所別

三宮（総合インフォメーション）、新神戸、北野の3つの観光案内所における、国内およびインバウンド対応件数の月別推移。

	三宮（総合インフォメーション）						新神戸駅案内所						北野案内所						合計					
	国内		海外		国内・海外計		国内		海外		国内・海外計		国内		海外		国内・海外計		国内		海外		国内・海外計	
	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比	件数	前年比
1月	5,097	98%	2,864	126%	8,229	106%	3,656	107%	925	130%	4,616	111%	1,507	102%	609	118%	2,221	104%	10,260	101%	4,398	126%	15,066	107%
2月	5,247	100%	2,628	103%	8,120	101%	4,898	124%	1,085	164%	6,014	130%	1,401	92%	578	105%	2,073	94%	11,546	108%	4,291	114%	16,207	109%
3月	7,270	99%	2,576	86%	10,162	95%	5,545	104%	1,471	96%	7,057	102%	1,983	99%	765	133%	2,900	106%	14,798	101%	4,812	94%	20,119	99%
4月	7,034	112%	3,342	128%	10,647	115%	4,470	98%	2,022	116%	6,538	103%	1,442	80%	770	114%	2,318	89%	12,946	102%	6,134	122%	19,503	107%
5月	6,460	90%	3,325	128%	10,024	99%	4,577	93%	1,556	110%	6,180	96%	1,979	87%	890	133%	2,978	97%	13,016	91%	5,771	123%	19,182	98%
6月	6,114	108%	2,999	113%	9,308	109%	4,097	99%	922	85%	5,055	96%	1,349	89%	960	157%	2,392	108%	11,560	102%	4,881	112%	16,755	104%
7月	5,785	95%	3,070	95%	9,015	94%	3,839	87%	1,105	87%	4,971	87%	1,363	108%	1,445	126%	2,915	116%	10,987	93%	5,620	99%	16,901	95%
8月	6,922	97%	3,003	112%	10,081	100%	4,163	87%	946	83%	5,149	86%	1,895	101%	1,446	126%	3,422	109%	12,980	94%	5,395	109%	18,652	97%
9月	6,922	112%	2,766	132%	9,915	116%	4,163	89%	1,239	105%	5,447	93%	1,970	116%	1,061	128%	3,151	120%	13,055	104%	5,066	124%	18,513	109%
10月	7,374	100%	3,750	117%	11,303	104%	5,105	88%	2,111	116%	7,248	95%	1,874	94%	1,363	181%	3,356	116%	14,353	95%	7,224	125%	21,907	102%
11月	8,187	105%	2,606	89%	10,987	100%	5,814	90%	1,495	97%	7,341	91%	2,314	108%	885	167%	3,320	119%	16,315	99%	4,986	100%	21,648	99%
12月	6,593	112%	2,542	95%	9,313	106%	4,117	86%	1,159	105%	5,298	90%	1,930	115%	763	137%	2,785	119%	12,640	102%	4,464	103%	17,396	102%
合計	79,005	102%	35,471	112%	117,104	104%	54,444	96%	16,036	109%	70,914	98%	21,007	100%	11,535	138%	33,831	109%	154,456	99%	63,042	113%	221,849	102%



■ 総合インフォメーション 件数 ■ 新神戸 件数 ■ 北野 件数 — 合計 前年比 ※半透明は前年

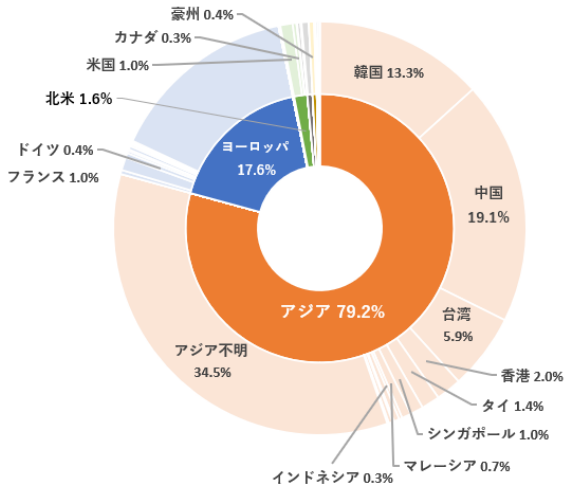
全体の傾向では、行楽シーズンに問い合わせ件数が増加し、計22万件を上回った。

三宮総合インフォメーションでは前年比104%と微増した。新神戸駅案内所では、有馬温泉に向かう来訪者やクルーズ船の乗客が多く、1~2月に加えて、4月や10月を中心にインバウンドが好調であった一方、国内は5月以降前年比で減少傾向が続き、前年比98%で着地した。北野案内所は年間を通じて最も伸びが大きく、特にインバウンド対応件数が前年比138%と大きく増加した。4月以降の神戸空港の国際化や東アジアからの訪日客増加に加え、北野異人館を訪れる欧米系観光客の増加も見られ、多様な市場からの来訪が拡大している傾向がうかがえる。

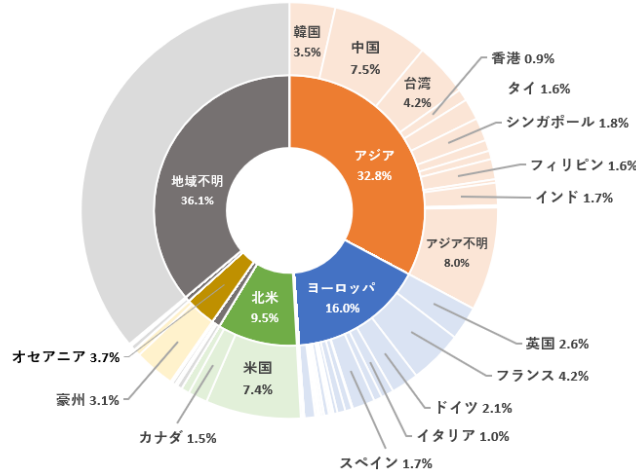
観光案内所：インバウンド対応割合・国籍別

三宮（総合インフォメーション）、新神戸、北野の3つの観光案内所を訪れたインバウンドの国別割合を分析。

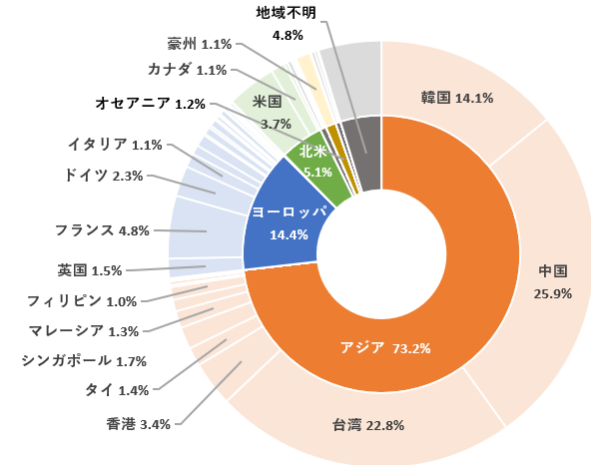
三宮（総合インフォメ）



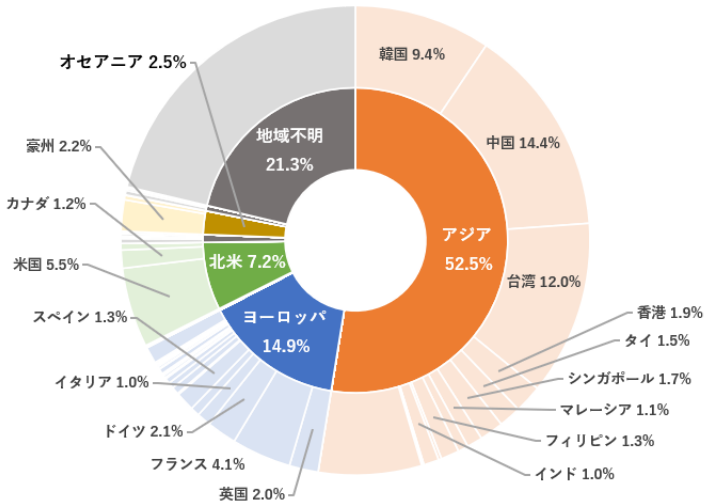
新神戸駅案内所



北野案内所

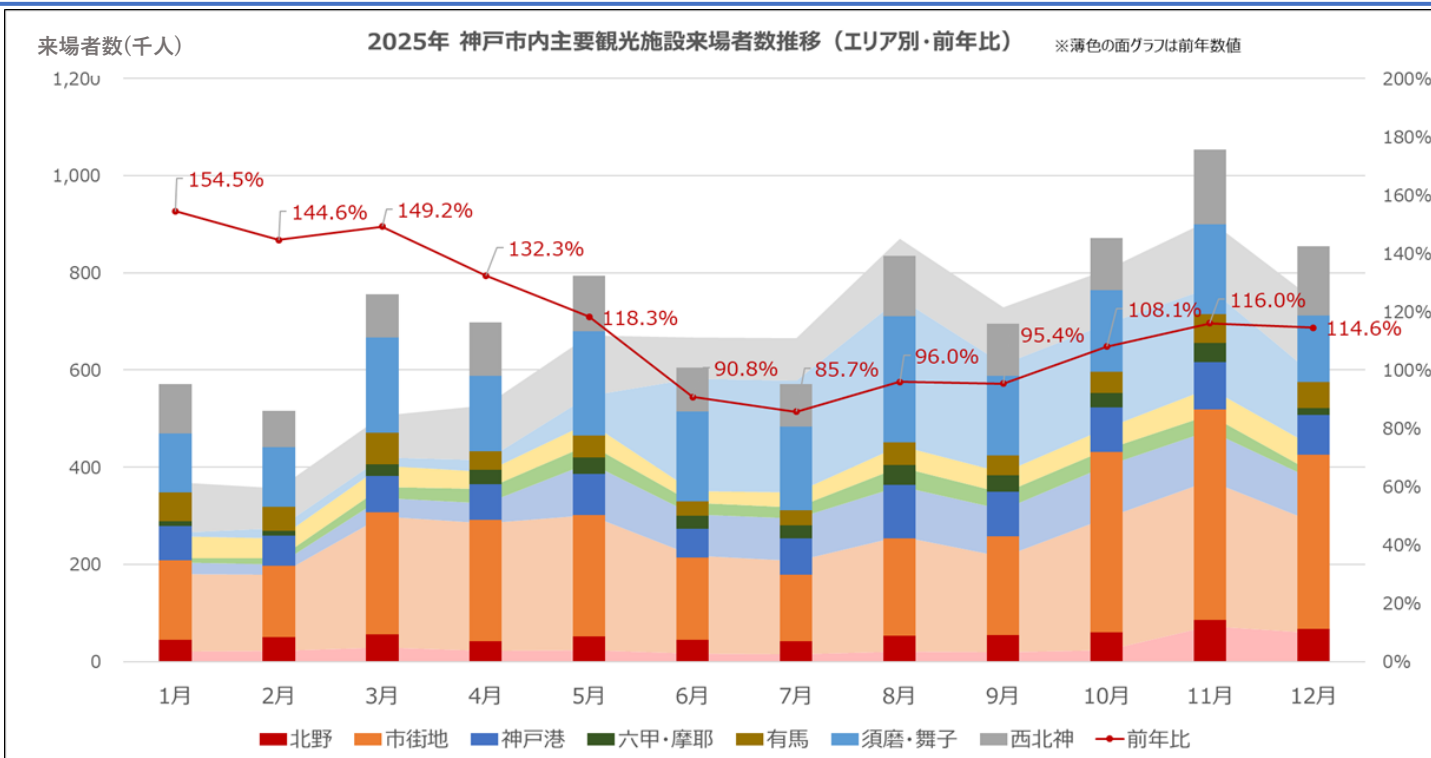


3案内所合計



観光案内所を訪れるインバウンド観光客の国別傾向を見ると、3案内所の合計ではアジア圏からの来訪が全体の半数以上を占める。中国が14.4%を占めており、11月中旬以降中国の渡航自粛の影響で減少したものの、前年比115.7%で各案内所でも最多のシェア率を占めた。また、韓国は三宮総合インフォメーションを中心に増加し、全体で前年比約1.3倍に増加した。韓国からの来訪者は市街地周辺を観光する傾向があると推測する。案内所別では、北野案内所が特徴的な傾向を示し、ヨーロッパのシェア率が前年比で2.4%増加し、問い合わせ件数の大幅な増加がうかがえる。北野異人館を中心に歴史的背景に関心を寄せる問い合わせが多かった。

主要観光施設：来場者数 推移



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年計	月平均	月平均前年比
2024	369,812	356,478	506,390	527,063	671,224	666,675	665,577	869,597	728,565	806,724	907,707	745,794	7,821,606	651,801	117.9%
2025	571,431	515,618	755,461	697,425	794,121	605,200	570,369	834,402	694,795	871,939	1,052,822	854,404	8,817,987	734,832	112.7%
前年比	154.5%	144.6%	149.2%	132.3%	118.3%	90.8%	85.7%	96.0%	95.4%	108.1%	116.0%	114.6%	112.7%		

出典：神戸市観光企画課・神戸観光局調査
 集計対象施設：全22施設（ラインの館、神戸ポートタワー、王子動物園、神戸どうぶつ王国、神戸布引ハーブ園・ロープウェイ、六甲山牧場、金の湯、道の駅フルーツ・フラワーパーク大沢 など）
 備考：本数値は神戸市が毎年実施している観光入れ込み客数調査の一環として、対象約97施設のうち主要な22施設へのヒアリング結果に基づくものです。あくまで月ごとの傾向や前年との比較を把握するための参考値であり、神戸市全体の観光入れ込み客数の総量を示すものではありません。

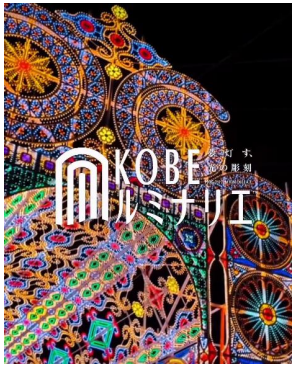
年間の来場者数は、6～9月を除くすべての月で前年比を上回り、年間では前年比112.7%と増加した。

前年比較では2024年を上回る月が多かったが、2024年の下半期にかけてリニューアルオープンした施設がいくつかあったことから、上半期は前年比を上回る月が続いた。エリア別では、有馬は5月・8月・11月を中心に増加傾向で前年比112.2%、須磨・舞子エリアがゴールデンウィークや夏休み期間を中心に好調に推移し、前年比123.9%だった。また、市街地は、特に下半期に開催された神戸市立博物館の「大ゴッホ展」の関係で集客が大幅に増加した。

また、施設からは神戸空港のチャーター便就航の影響で、アジア圏を中心に前年比で約1.5～2倍増加したとの声が多かった。

< 神戸観光局 Instagram (@kobe.kanko) 2025年保存数ランキング >

TOP 1



2025/10/27

神戸の鼓動、光の物語 ✨
「第31回神戸ルミナリエ」

TOP 2



2025/7/16

この夏行きたい、
神戸の夏祭まつり3選

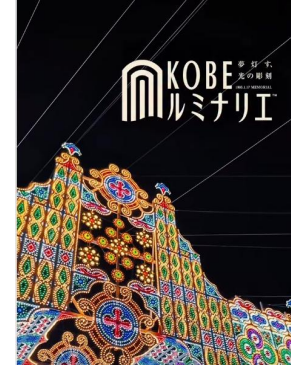
TOP 3



2025/6/19

「第31回神戸ルミナリエ」
開催決定 ✨

TOP 4



2026/1/29

31年目の希望の光 ✨
「第31回神戸ルミナリエ」

TOP 5



2025/7/25

神戸で味わえる
世界の料理特集4選

TOP 6



2025/8/19

この夏を、神戸に刻もう ✨

TOP 7



2025/6/26

週末を鮮やかに彩る ✨
神戸港ウィークエンド花火

TOP 8



2025/5/24

神戸で煌めくねぶたの光 ✨
弘前ねぶたin神戸2025

TOP 9



2025/7/30

・ × ・ 「KOBE PORT TOWER × Dick Bruna TABLE in KOBE Waterfront」開催中! ・ × ・

TOP 10



2025/12/31

初詣におすすめ神戸の神社3選

- 神戸観光局が運営するInstagramでは、2025年を通じてテーマ別の複数のスポットを紹介する投稿が多く、保存数を獲得。保存 = 「後で見返したい」という心理の表れであり、こうした複数のスポットを同時に紹介する形式は、**神戸での過ごし方やその選択肢をイメージするのに効果的で、旅行意欲を直接喚起しやすかった**と考えられる。
- 特に、ルミナリエをはじめとした「夜景・イルミネーション」は「いいね数」でも同様に上位を占めていることから、夜に楽しめるイベントが注目を集め、ナイトタイム事業の普及が伺える。時期別では、初夏～晩夏にかけての投稿が特に多くの注目を集めた。

アンケートご協力のお願い

「2025年 神戸観光年間レポート」をご覧ください、誠にありがとうございます。

今後、さらに有益で充実したレポートをお届けしていくために、皆様の率直なご意見をお伺いしたく、アンケートへのご協力をお願い申し上げます。「こんな情報があれば活用しやすい」「この部分をもう少し詳しく知りたい」といったご要望やご感想をお聞かせいただけましたら、今後の改善に活かしてまいります。

▼ アンケート回答はこちら

<https://forms.gle/zq7gi6fSBDnnmgWt9>

※ 所要時間：3分程度、匿名回答

※ ご回答期限：2026年 6月30日（火）



また、神戸観光局では、観光関連データやトレンド、各種トピックスなどをまとめた「マンスリーレポート」を、毎月会員の皆様へ配信しております。「マンスリーレポート」の配信をご希望の方は、神戸観光局会員へのご入会が必要となっております。ご関心のある方は、ぜひお気軽にお問い合わせください。（[神戸観光局会員 入会案内](#)）

今後とも、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

一般財団法人 神戸観光局 経営推進部 マーケティング担当
TEL：078-262-1631（直通）
Email：kobe-dmo@kcva.or.jp

神戸観光局マーケティング情報

2 0 2 5 年
神 戸 観 光
年間レポート